

特 116

881



始





京醫科大學教授

醫學博士 土肥廣三

醫學博士 田中友海 報告

九州醫科大學教授

醫學博士 旭 憲吉

醫學博士 有田 音松 講

醫學博士 岡村 龍彦 演

# 花柳病講話集

大  
阪  
ド  
ラ  
ツ  
ク  
商  
會  
出  
版  
部



持116  
881



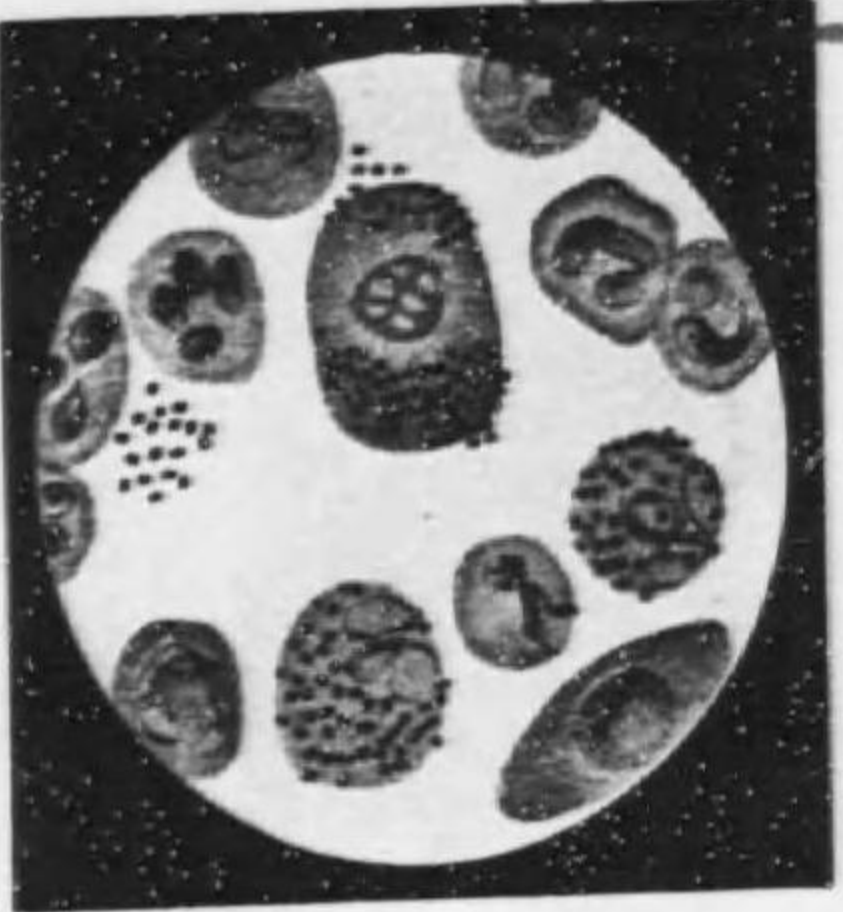
188  
111

圖 壹 第



Diereyische Streptothaen  
關根氏須藤氏イレカユラ

圖 貳 第



Gonopocaris Neisner  
關根氏ルセイヤ



圖 參 第



Sptrochaete pallida (Glimmsfarbung)  
色染法 薩氏サ.A.イ  
アサキハシラニヒトス

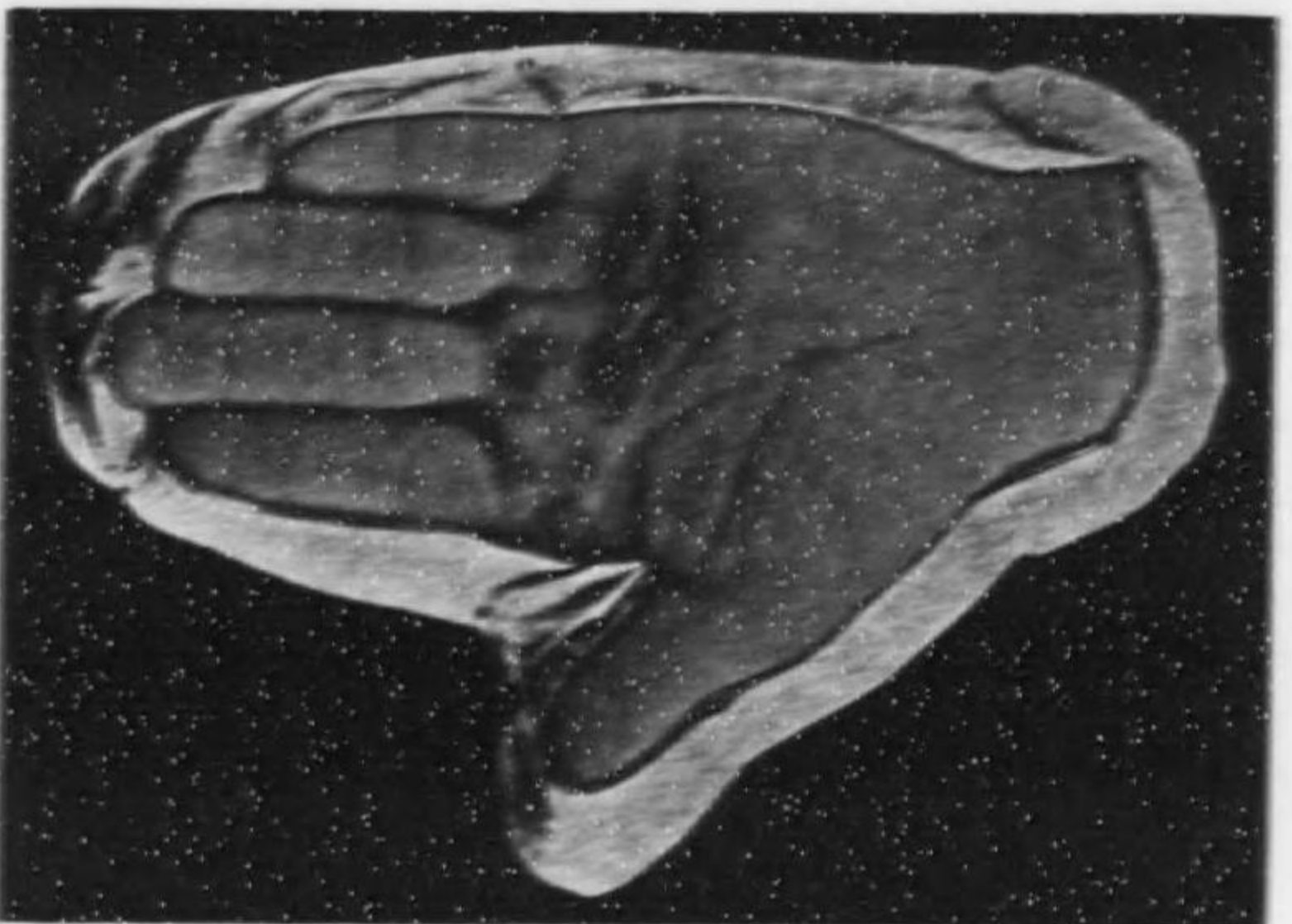
圖 肆 第



Sptrochaete pallida (Silberimpregnation)  
色染法 鍍銀  
アサキハシラニヒトス

大正  
6. 11. 16  
内交

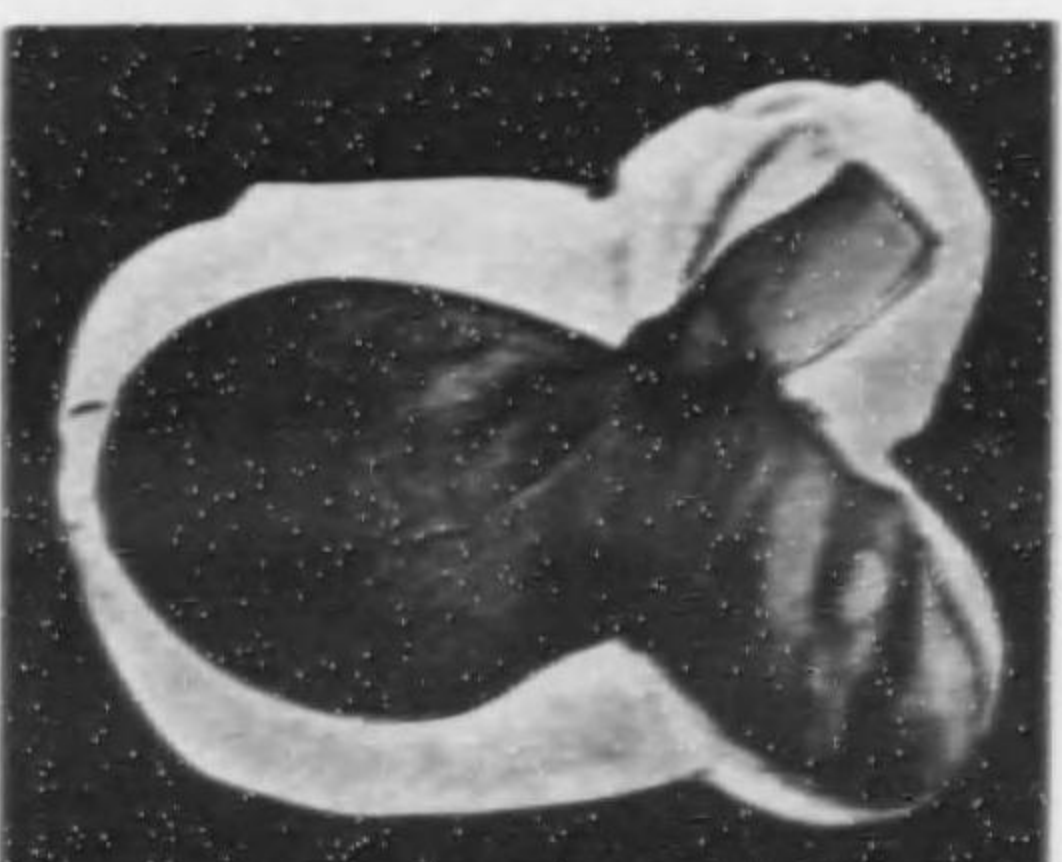




雄毒蛾性化角  
*Myphila cornu*  
(Kihok-Ki, Asahi-Kushin)

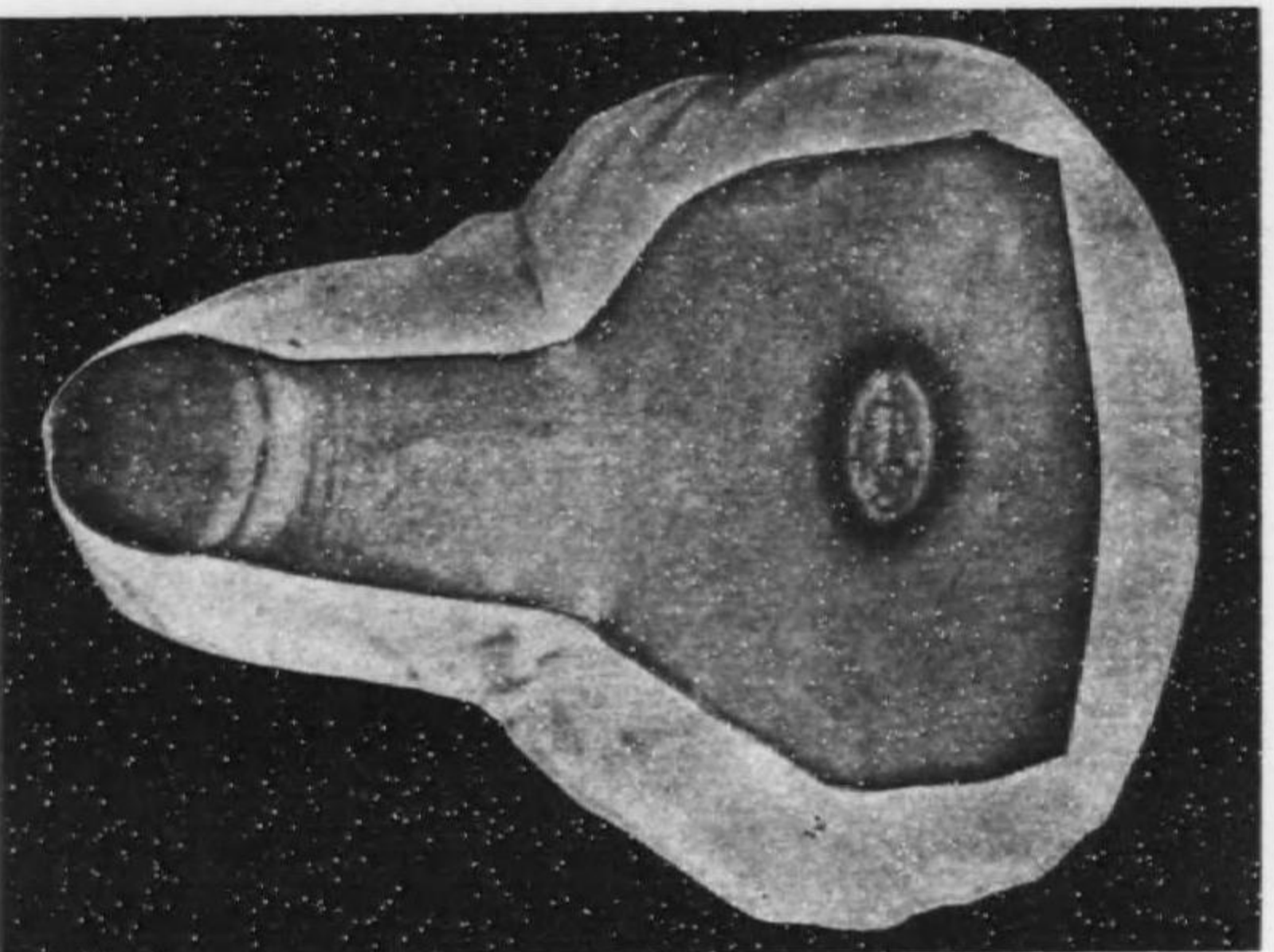


雄毒蛾幼虫壳  
*Myphila corymbiformis*  
(Kihok-Ki, Asahi-Kushin)

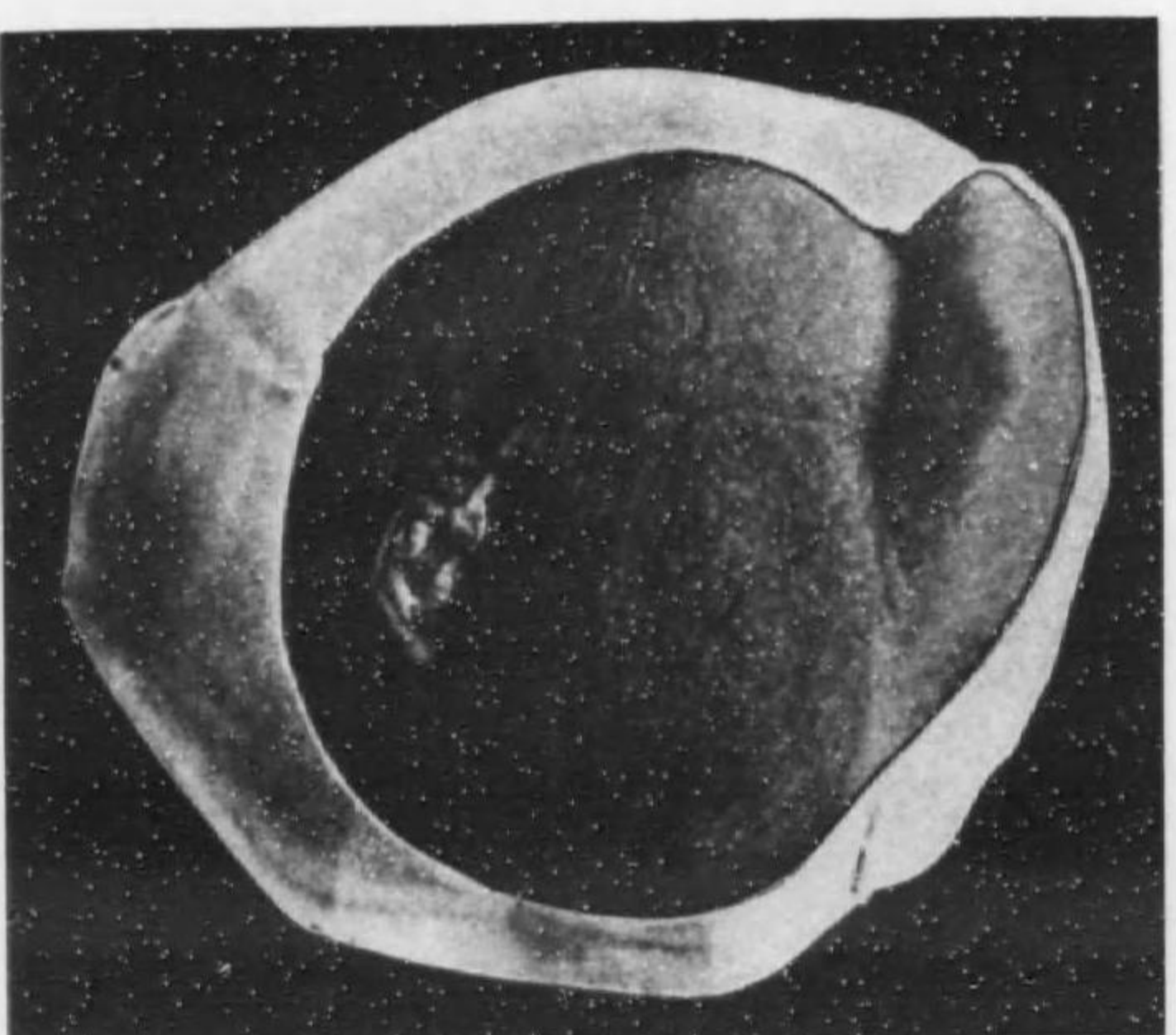


卵产性蛾性幼虫  
*Eusa nodis elevatum*  
(Kihok-Ki, Asahi-Kushin)



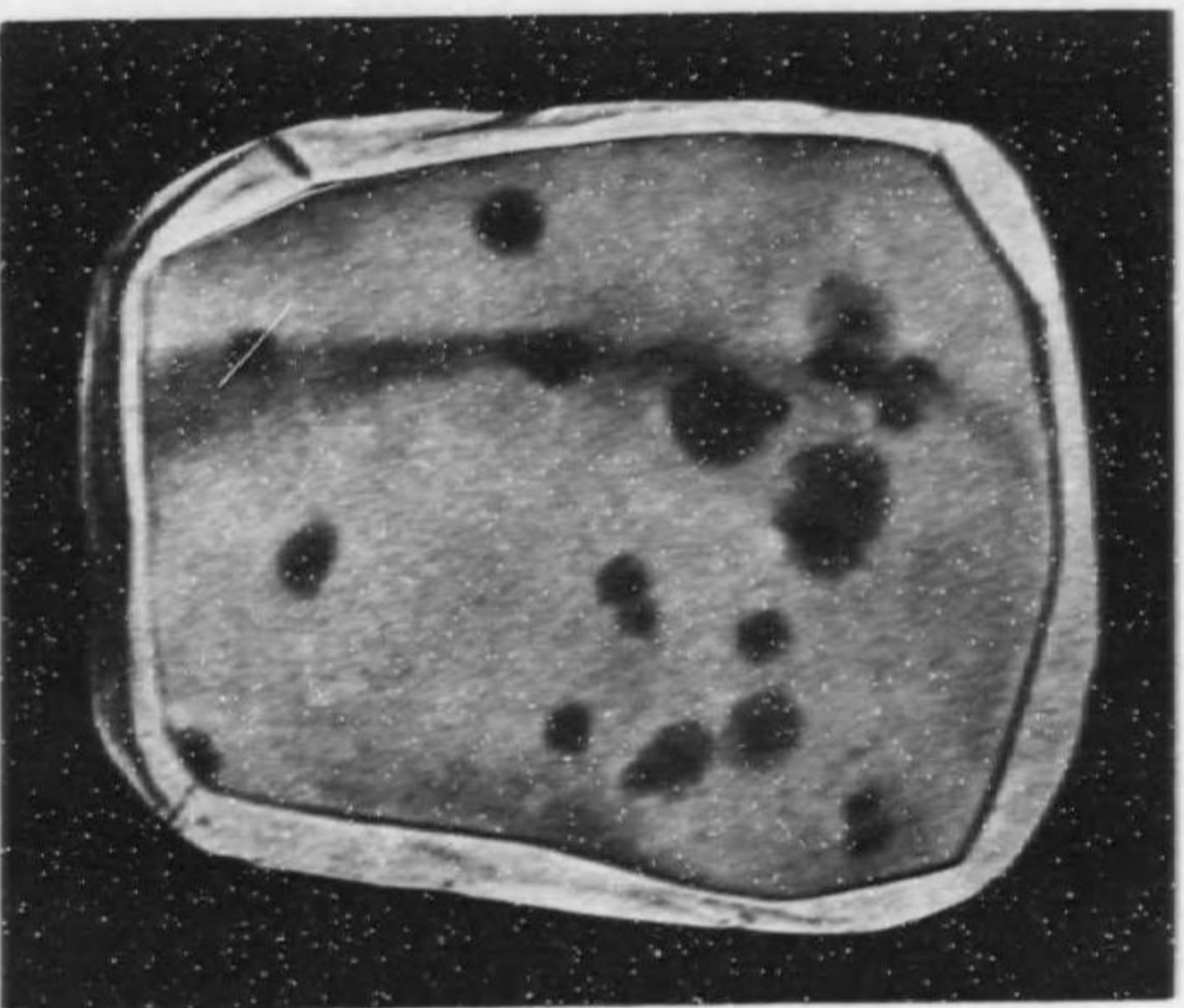


下 外 部 陰  
Extragenitalschanker  
(Klinik-K. Asahi-Kishin).

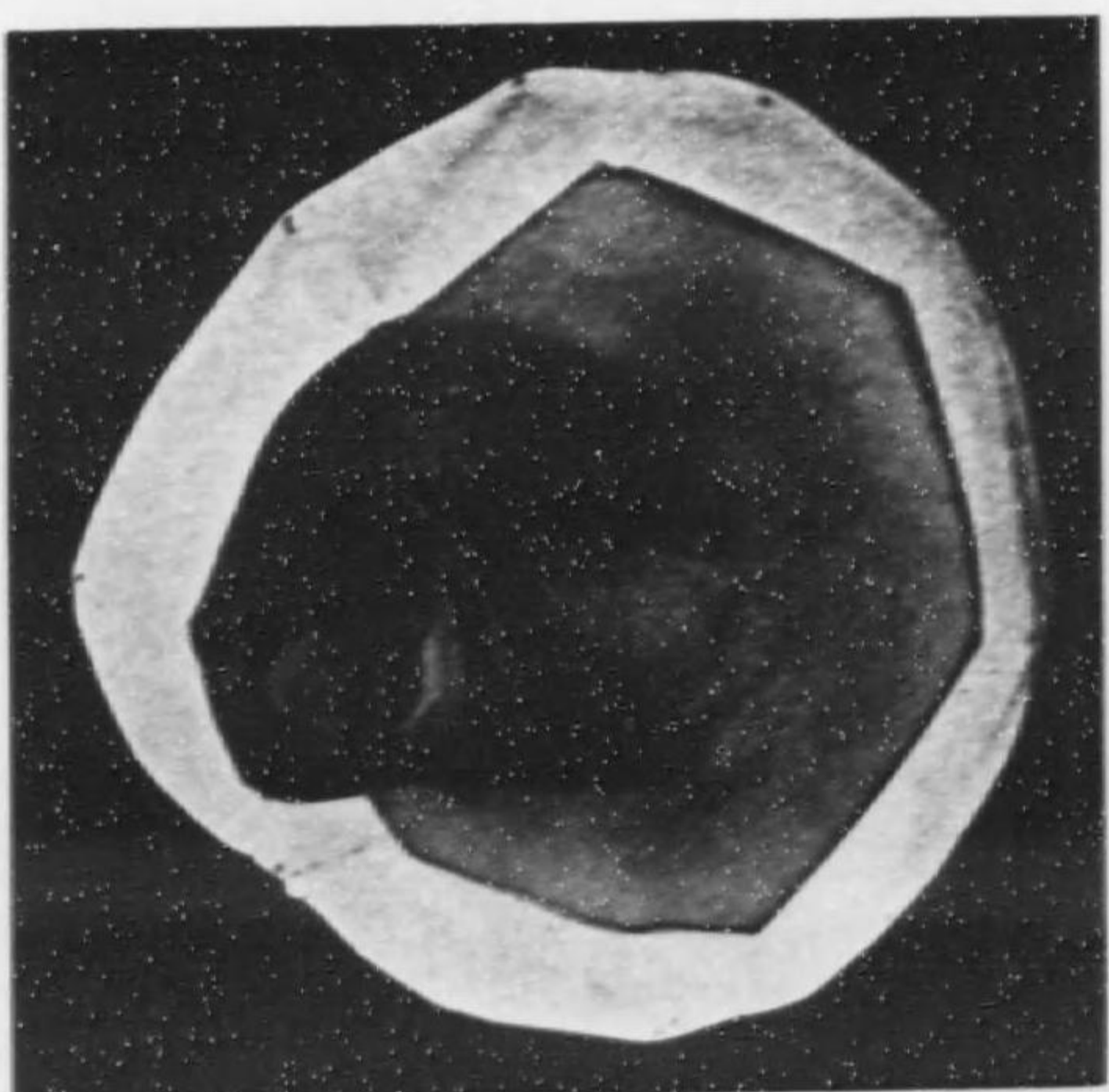


Hodengennuma  
腫 護 丸 罩  
(Klinik-K. Asahi-Kishin)



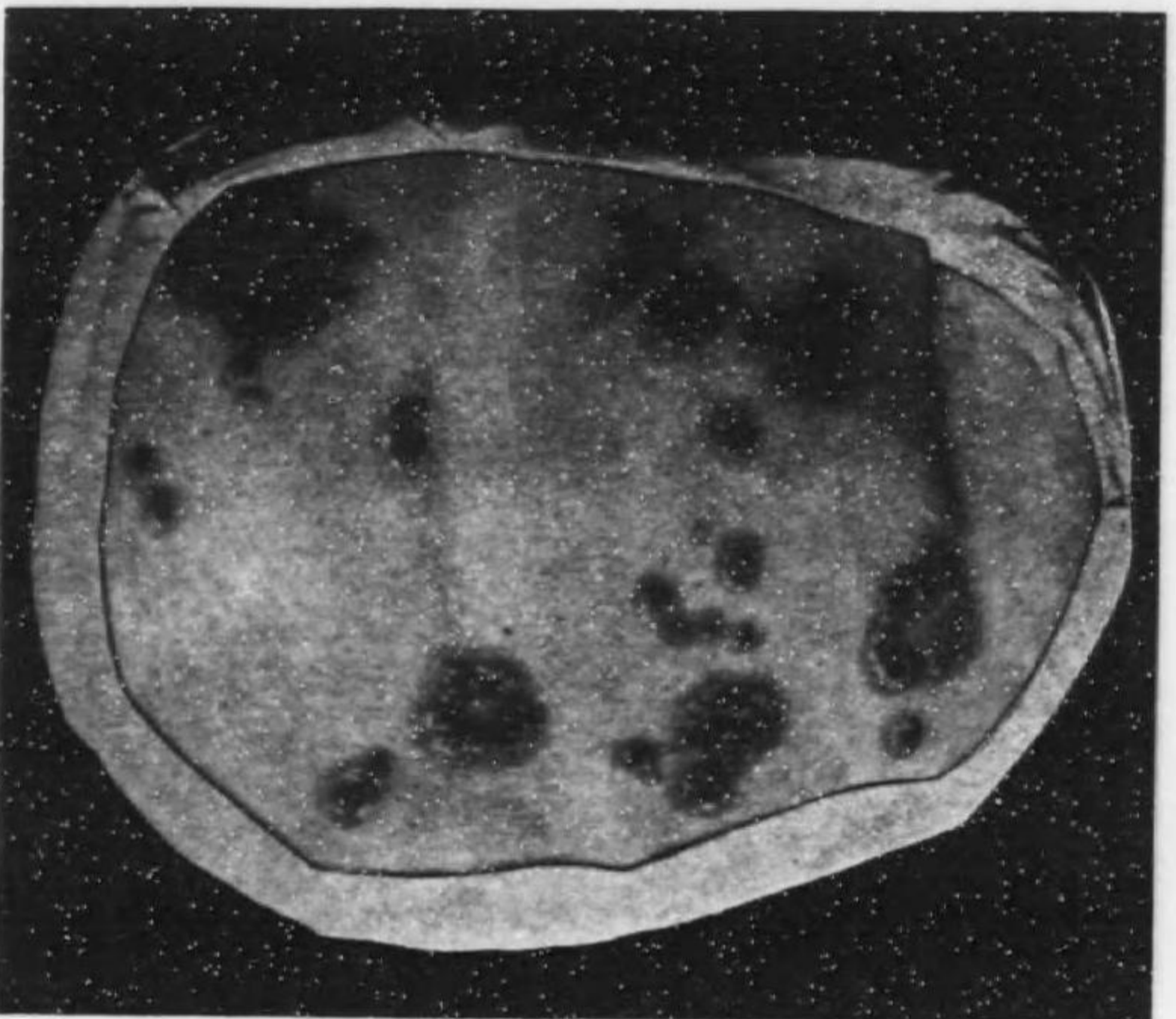


瘧蟲癩性瘧原狀蟲  
*Sypthella papulo-squarrosa*  
(Kihaku-K. Asahi-Kushicho).



瘧原狀蟲  
*Leios durum*  
(Kihaku-K. Asahi-Kushicho)



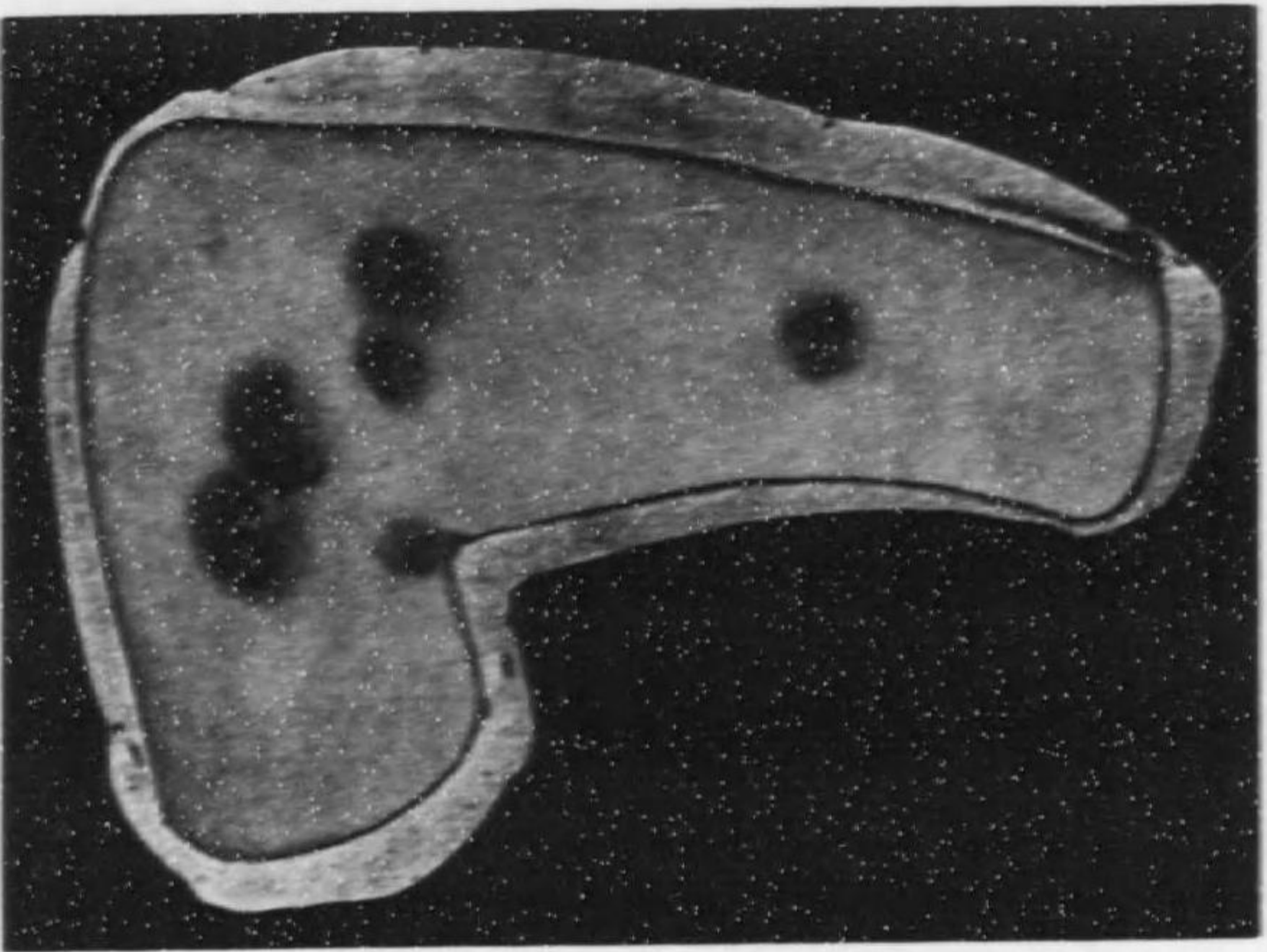


Syphilis gummosa superficialis  
疹毒瘰性腫膿性在淺  
(Kihnik-K. Asahji-Kishichu)

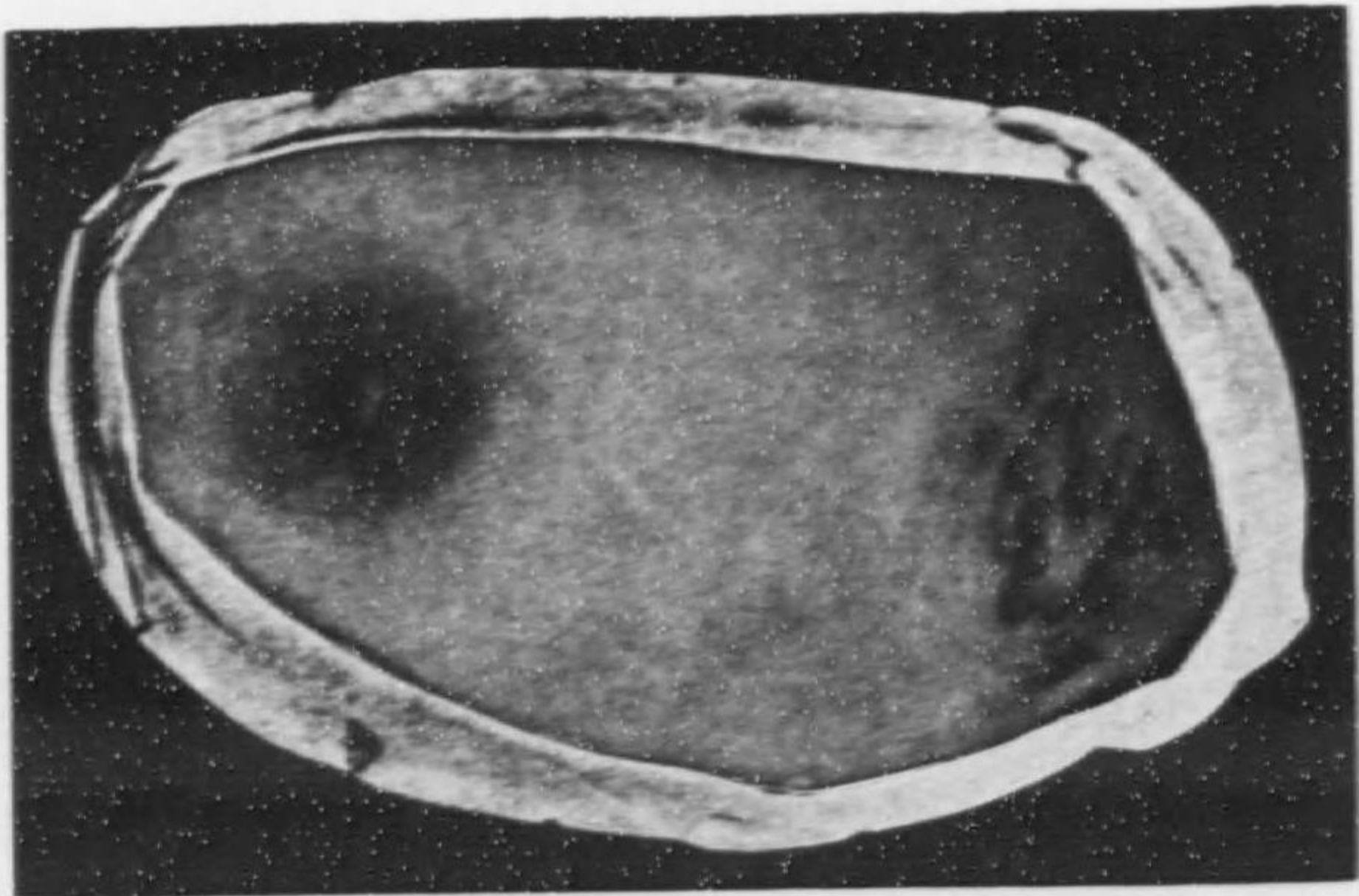


Syphilis gummosa  
疹毒瘰性腫膿  
(Kihnik-K. Asahji-Kishichu)



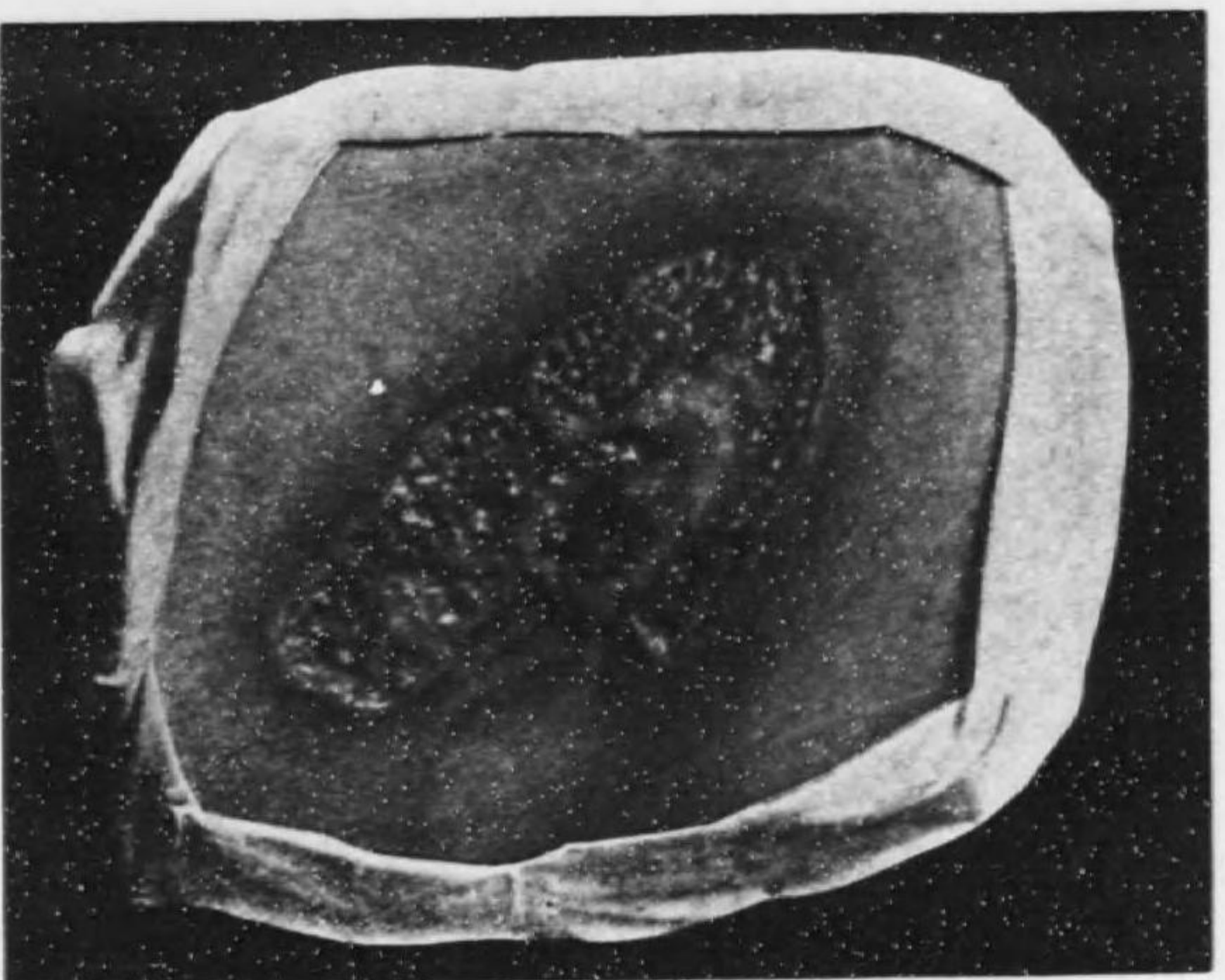


菇 傘 菌 性 菌 類  
*Boletus erythellus*  
(Kihinko-Ko, Asahi-Kyushin).

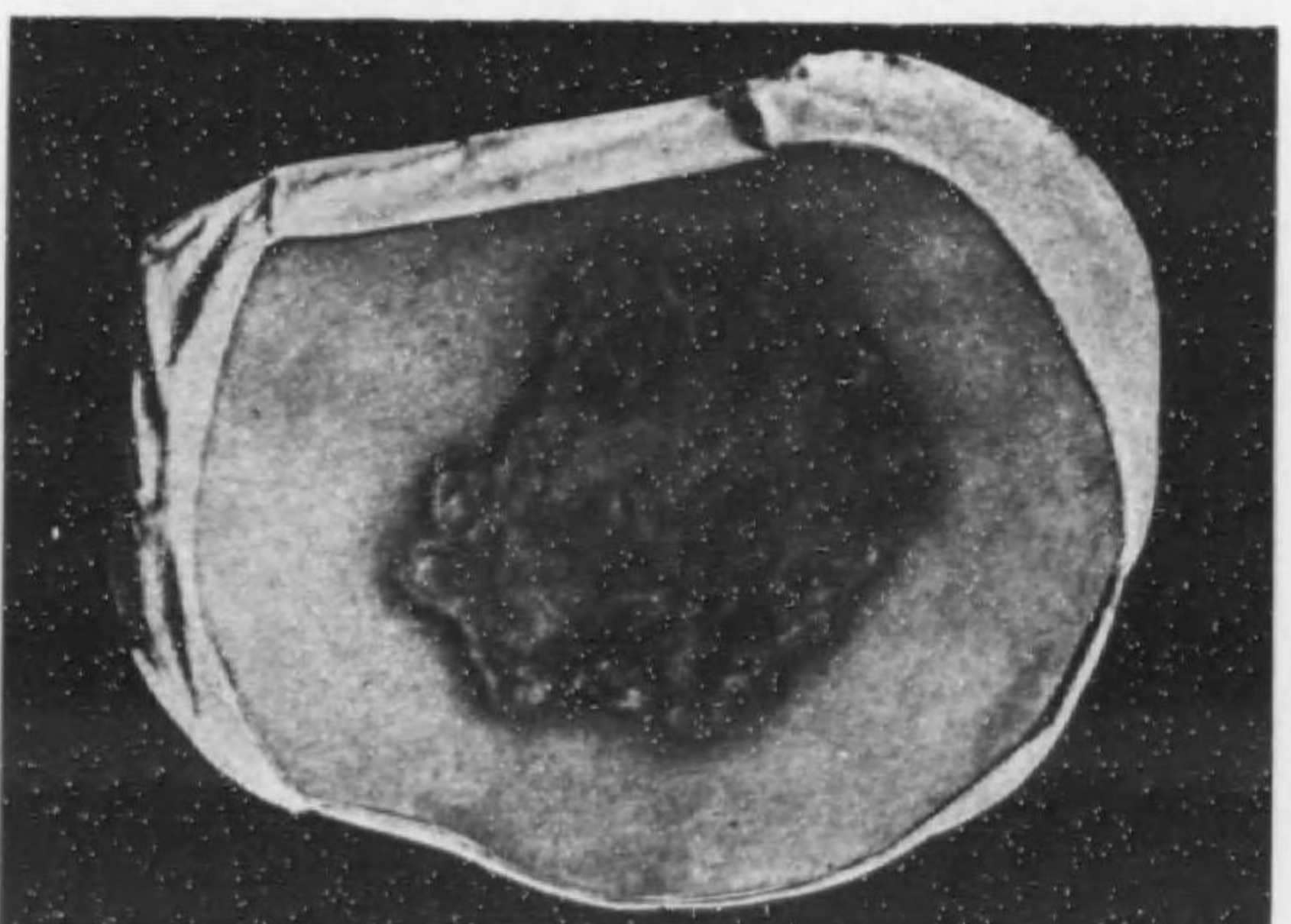


ム ー ン 傘 菌 性 菌 類  
*Cantharellus lateralis*  
(Kihinko-Ko, Asahi-Kyushin).





*Syphilia ulcero-serpentina*  
瘡毒蝮性瘡潰性行蛇  
(Kihink-K. Asahi-Kinshin)



瘡毒蝮性瘡潰性行蛇  
*Syphilia ulcero-serpentina*  
(Kihink-K. Asahi-Kinshin)

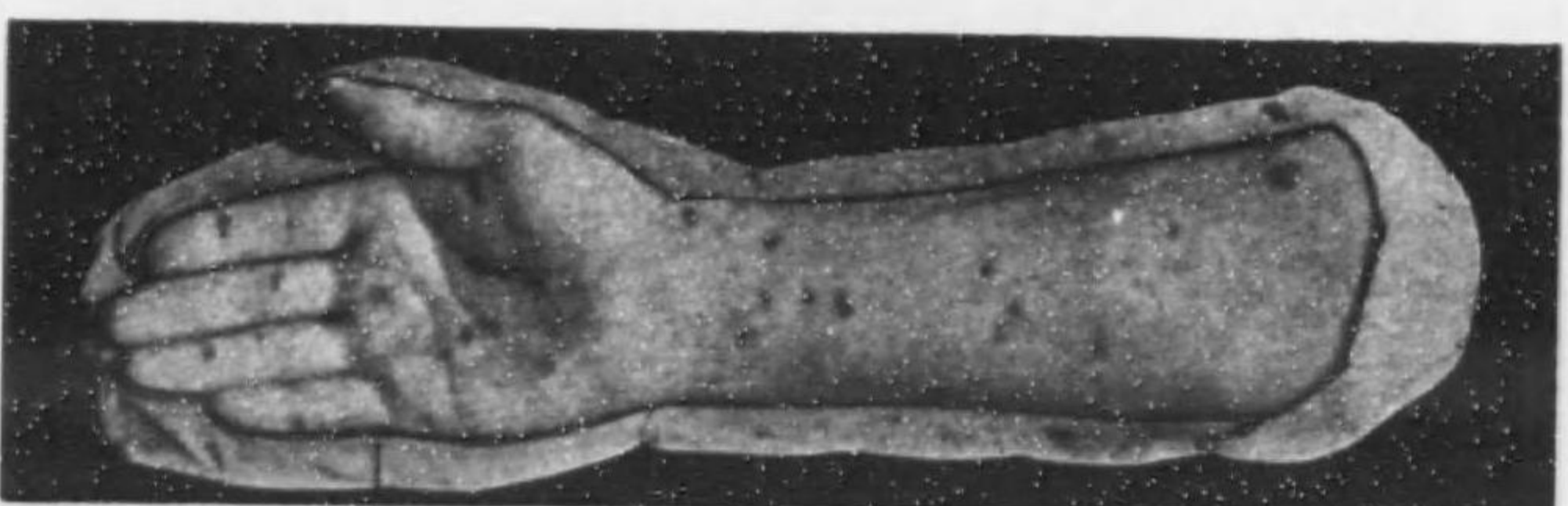




膿 瘡 腫  
Gnumma  
(Klinke-K. Asahi-Kishin)

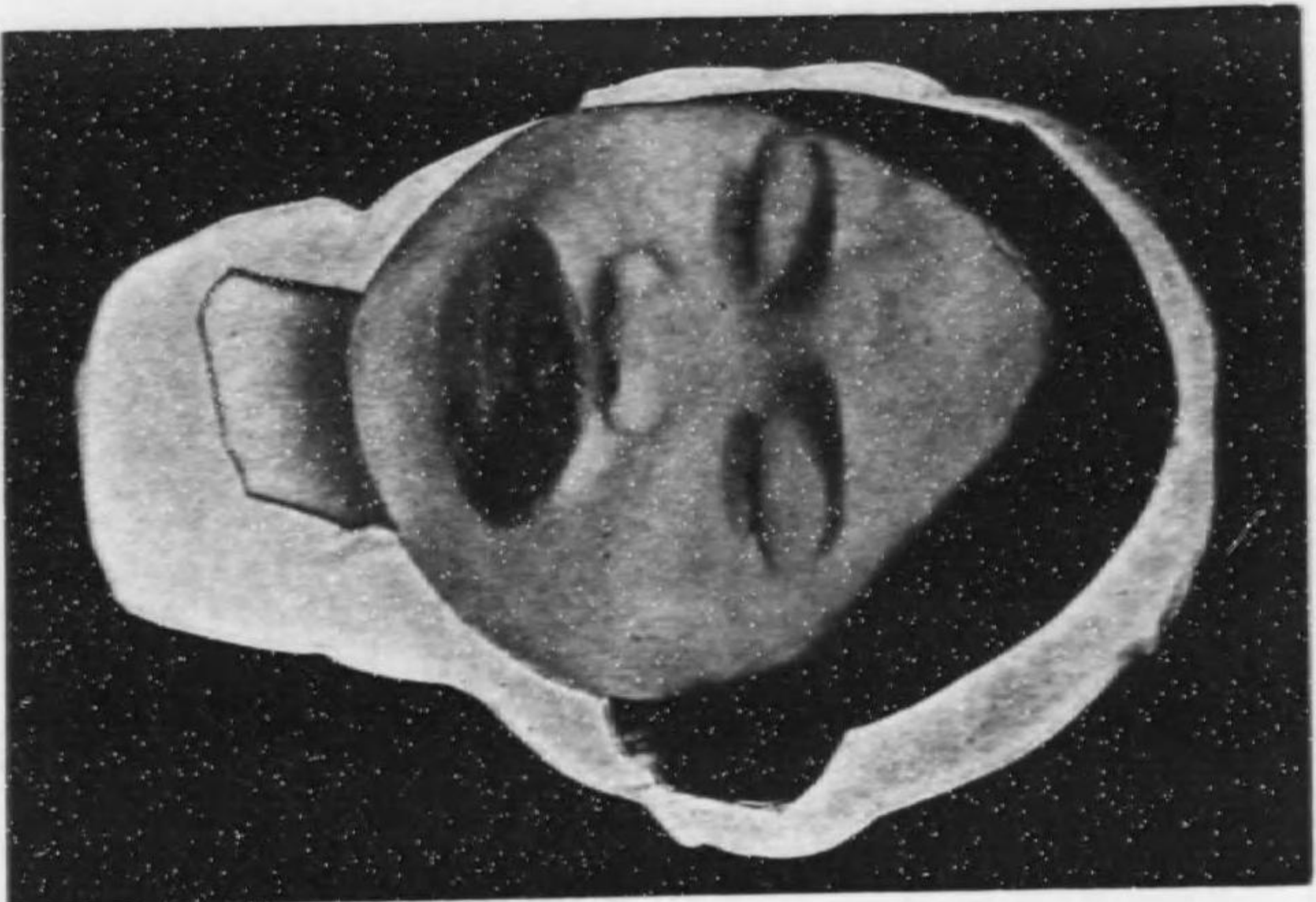


Syphilis maligna  
毒 瘡 性 惡  
(Klinke-K. Asahi-Kishin)

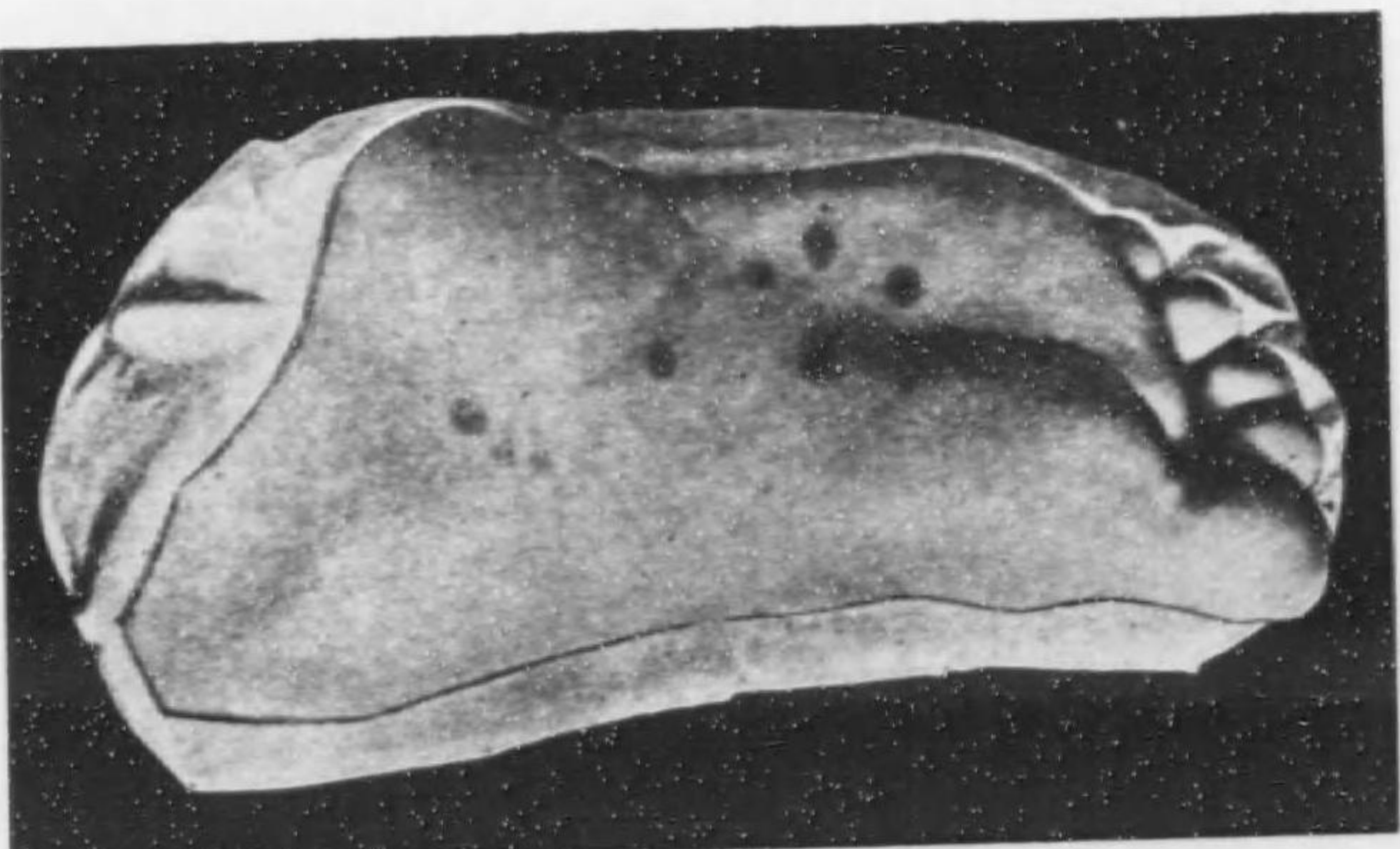


Syphilis papulosa  
(Psoriasis palmare)  
毒 瘡 性 疹 丘  
(癩 乾 掌 子)  
(Klinke-K. Asahi-Kishin)



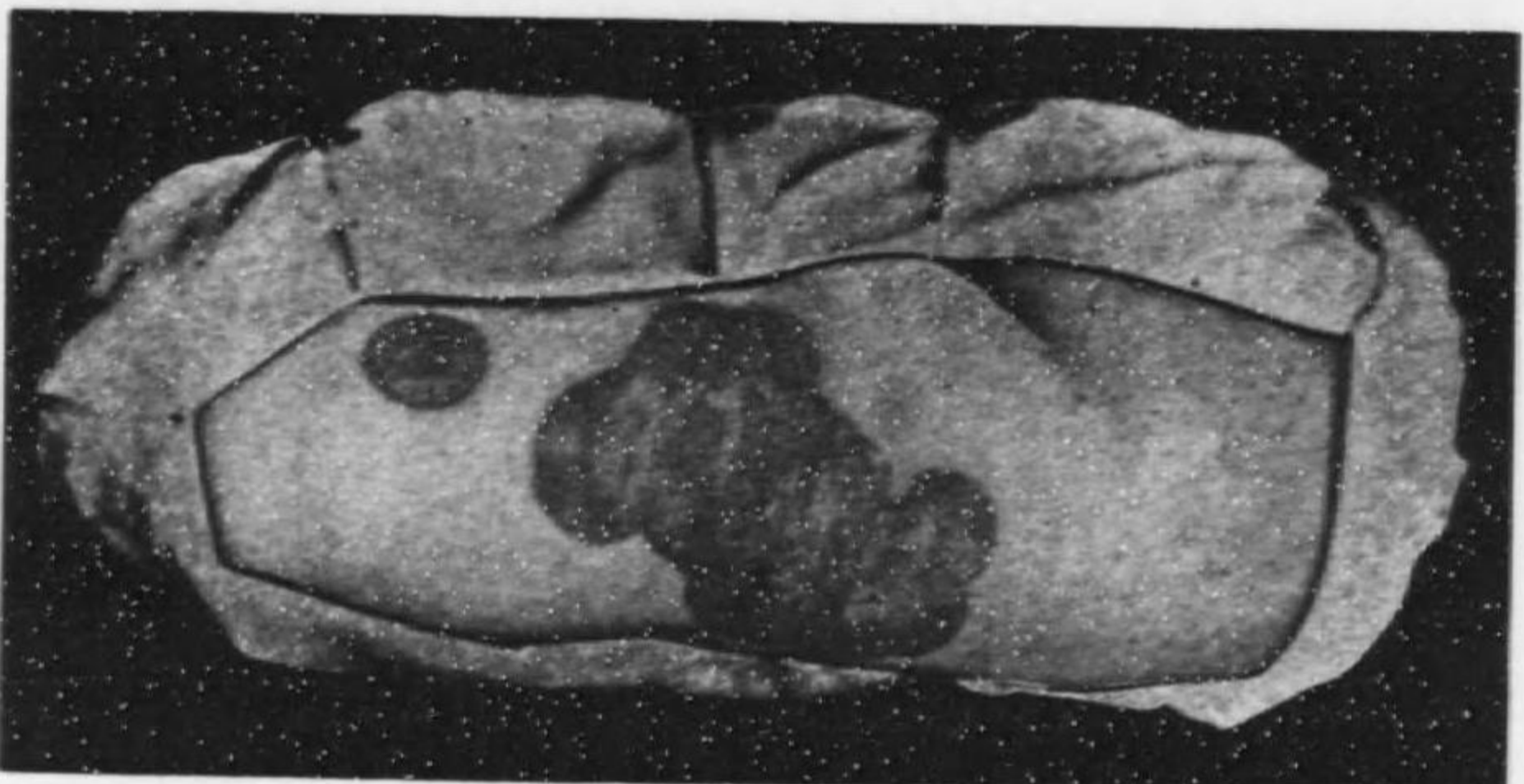


*Syphilla gummosa hereditaria tarsha*  
梅毒性膿腫傳遺性通  
(Kihuk-K. Asahi-Kinshin)

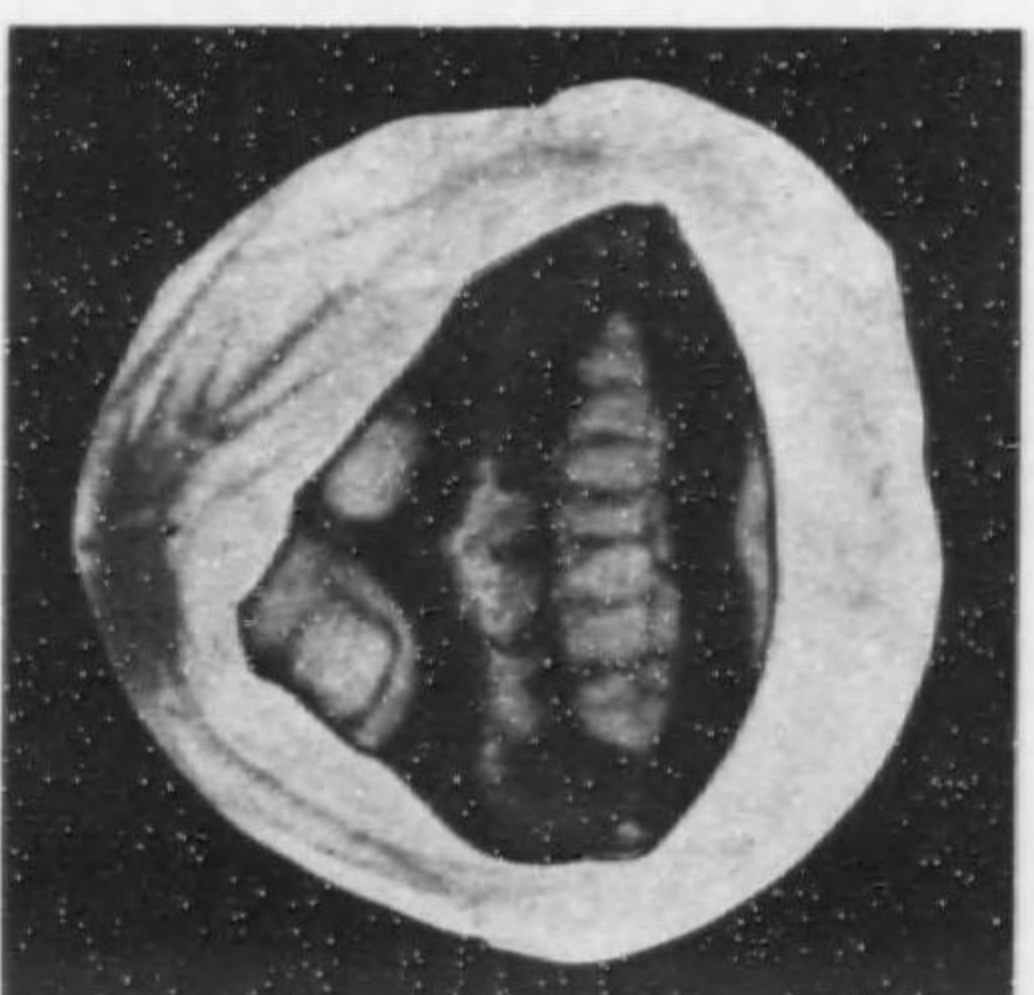


*Psoarialis plantaris*  
癬乾腫足  
(Kihuk-K. Asahi-Kinshin)





毒瘰癧遺性疹丘  
*Syphilis hereditaria papulosa*  
(Kihnik.-K. Asahi-Kishicho).



瘰癧膠粘  
*Plaques mucronates*  
(Kihnik.-K. Asahi-Kishicho).



警世目次

●花柳病談

……ドラッグ商會主 有田音松……一

●日本の青年百人は花柳病に罹つて居る……醫學博士 岡村龍彦……七

- ▲新首の嚴罰を以てするも豫防困難……………同
- ▲文明國程盛んに蔓延……………同
- ▲日本人は一度は罹つて居る……………同
- ▲最も多く感染したる人と場所……………同
- ▲一生を誤れる有爲の青年……………同
- ▲恐るべき害毒を銘せよ……………同
- ▲青年の感染する根本的の二大原因……………同
- ▲感謝すべき亡父の訓戒……………同
- ▲肉食より却て運動せよ……………同
- ▲斯くして心機を一轉せよ……………同

●花柳病の話

……醫科大學教授醫學博士 旭 憲吉……同

- ▲花柳病とは何ぞや……………同
- ▲花柳病は何故に恐ろしきか……………同
- ▲花柳病の症狀……………同
- ▲花柳病は如何にして豫防し得るか……………同
- ▲花柳病と六百〇六號……………同



●既往一年間に於ける

サルワルサン(六〇六號)の治験

醫學博士 土肥慶三

●六〇六號は駄目

ドラッグ商會 横山峰一

●梅毒談

ドラッグ商會主 有田音松

▲梅毒預防法  
▲衛生法  
▲治療法

●ワツセルマン氏の反應試験

●淋病談

ドラッグ商會主 有田音松

- ▲急性淋病
- ▲慢性淋病
- ▲尿道狭窄
- ▲淋菌肺炎
- ▲精系炎と副睾丸炎
- ▲女子の淋病
- ▲眼の淋病
- ▲關節炎と心臓炎
- 淋病の診断法
- 尿道の洗滌法
- 尿道狭窄

# 花柳病談

ドラッグ商會主 有田音松講演

花柳病は實に恐るべき病でありまして、今日の如く盛んに蔓延致しましたならば、國民の元氣が銷沈いたし、戰鬥力を減じ遂に國を亡ぼすに至る憂がありますから、亡國病とも稱するに致つたのです。

梅毒の起源に就ては歴史上確とした事は判りませぬけれど、南米ペルー國及佛國古代の墓地から發掘した人骨を研究した結果此病氣の太古より存在せしことは證據立てられ其後種々の學者によりて種々の議論が交換せられて居りますけれど、何れも假定説に過ぎませぬ、明かに其存在を斷定し得るのは十五世紀後であります、即千四百九十五年佛王カール八世の遠征隊に梅毒の大流行がありましたして一二年間に伊太利、瑞西、獨逸、和蘭、英國等に蔓延し千四百九十九年には露西亞にまで達しました。

一説にはコロンブスの亞米利加發見と共に歐洲に入り來れりと云ひますけれど、コロンブス一行が第二回の西大陸遠征を終へ伊太利に歸りましたのは、千四百九十六年の六月で、カール八世の軍隊に梅毒の流行を見ましてから、一年の後です故に此説は信するに足りませぬ。

梅毒が舊世界にも古くより存せし者なることは種々の記載によりて疑ふ餘地はありませぬけれど、其大流行致しましたのは十五世紀以後であります。

梅毒が支那に渡來したのは弘治の末か正徳の初めであります、即ち和蘭人によりて廣東人が傳染したのです、而して我國に初めて梅毒の知られたのは永正九年で西暦千五百十二年であります、當時は唐術又は流球瘡と唱へて居りました、これは支那又は琉球から渡來したので附けた名です。

淋病の起源も亦極めて古く、ヘブリユ、羅馬或は希臘の時代に已に存在せしことは歴史の示す所であります。要するに中世迄は淋病と云ひ梅毒と云ひ下疳と云ひ其原因の不明なるが爲め、或者は別個の病だと云ひ或者は同一の病であるに唱へ議論紛々として決しませなんだが、千七百六十七年ジョンハンター氏が三病一毒説を唱へまして一時此説に賛同して居りましたけれど、文化が進むに隨つて二毒説となり三毒説となりました、即ち淋菌はナイセル氏により、軟下疳菌はデュクレイタレフチング及ウンナ氏により、梅毒原蟲はシャウチン氏によりて各發見せられまして最早千古動かす可



からざる眞理となりました

### 花柳病の源泉

維新以降文物制度衰々として進歩いたしまして殆ど止まる所を知らないけれども文明の蔭には闇暗が潜んで居る、これは古今の通理で、燦然たる文物の隆興と共に其反面に於てはあらゆる醜惡汚行が跋扈跳梁して居る、殊に花柳病の如き人性の弱點に迎合する病毒は、其蔓延の勢が意外に強く、實に寒心に堪へられない位である、で衛生思想が發達したにも拘はらず、此恐るべき病毒が雨後の筍の如く生ずるは深く怪むに足りない譯だ、何にしる女なくては夜が明けぬ國とまで叫ばれて居るのである、花柳病毒の傳播を防ぐことは中々難事です

云ふ迄もなく此花柳病は不潔の交接又は器物等より傳染するものですから之を豫防するには、各自の衛生思想に待たねばならぬ、我輩が花柳病の源泉として懼るゝのは密淫賣であります、此密淫賣(酌婦、矢場女等を含む)は政府當局が鋭意掃蕩に従事せられて居らるゝにも拘はらず、追へば又た来る夏の蠅と一般で到底掃蕩することが出来ませぬ、徳義の頹敗と經濟界に於ける急激的波瀾は、憐れなる脆弱にして意志の薄弱なる妙齡の婦人を拉し來りまして貪慾飽くことを知らないう虎や狼の餌に供するのである、試みに彼等が密淫賣に墮落した因由を擧げて見れば

(一) 親に強ひられたるもの

- (二) 養父母の誘致若しくは強迫せられたるもの
- (三) 夫又は情夫に強ひられたるもの
- (四) 無頼の惡漢に誘拐又は脅迫せられたるもの
- (五) 情夫に捨てられ又は欺かれたるもの
- (六) 惡口入屋に欺かれたるもの
- (七) 子の愛又は親の恩にひかされたるもの
- (八) 貧に驅られたるもの
- (九) 素行不倫なりしもの
- (十) 虛榮心に囚はれたるもの
- (十一) 失戀の結果自暴自棄に流れたるもの
- (十二) 自己が或る他の目的を遂げんが爲めなるもの
- (十三) 土地の惡慣習に染まりたるもの
- (十四) 家庭の惡感化を被りたるもの

密淫賣婦となつて居るものは其孰れかの一に該當せぬものはなからうと思ひます、要するに密淫賣婦の存在は社會組織の缺陷誤謬と各個人の腦底に潜める道義觀念の甚だ振はざる反影でありまして道義の上から見て悲むべきことであるのみならず、花柳病の源泉となるのですから、何とかしてこれを撲滅する法を講せなくてはならぬ。

### 東京淺草淫賣の花柳病患者

東京市淺草公園六區と千束町附近の密淫賣婦に對する自衛的健康診斷は最も圓滿に行はれ相當の成績を擧げ彼等に對する治療も漸次改良せられ隨て花柳病豫防上利する所大なるは喜

ぶべき事であり、今其成績を示しますれば

▲昨年六月より十月に至る五ヶ月間に愛診致した密淫賣婦は總數一萬七千五百〇一人 内有毒者一萬三千三百廿六人 一日平均 百〇七人 内有毒者 八十二人

有毒者百人に對する主病の割合  
梅毒三十三人五分六厘  
淋病六十九人九分一厘  
軟下疳 五人五分三厘  
で密淫賣婦百人中には七十六人の花柳病患者がある割合であります、實に聞いてさへもゾツとする位恐ろしいではありませぬか、斯る有様ですから花柳病の蔓延を防がんでは須らく密淫賣婦を嚴重に取締らねばなりません、望むらくは自衛的梅毒法を全国各地に實行したいものです

### 花柳病の蔓延

戀の病は、お醫者さんでも有馬の湯でも癒りやせぬとは昔から相場が定まつて居る、かて、加へて文明の餘澤が、戀は神聖である杯と云はし、自然派小説が流行したのだから、花柳病の蔓延は破竹の勢を呈したのである、そよよと吹く魔風戀風ならば多少の趣味なきにしもあらずだが、現今の様に吹きに吹き荒みに荒んで、脚も都も背間にひたさ寄り行く影法師を現はし、河岸の邊に奇聲を發するのみかは、木を植る斧の響聞ゆる處、潮たたく海女の煙上る所、この戀風の及ばぬ隈もなく、花柳病に悩まざる地はない、燃ゆるが如き青春の血汐を漲らし、星だの董だのと密よりも甘き戀の汁に酔へる青年男女に道徳だとか品性だとか説いても棘に釘程のきよめ

もなく、馬の耳に念佛程の功能もない實に困つたものである龍が人力車となり、空に電線、地に鐵道、實に現代の大御代が、僅かに四十餘年間に於ける進歩變遷は、山の芋が蠟ごなり、雀海の中に入りて給ごなるよりも、更に不思議で更に急激であると同時に醫學藥學の進歩も著しく、恐るべき花柳病患者は其數を減すべき筈であるのに、事實は正反對で、病毒は恐るべき勢を以て蔓延し、文明の光さす津々浦々迄も病毒が纏蔓したのである

### 内務省と壯丁検査

花柳病がドノ位蔓延して居りますか正確なる數を示すことは統計學の幼稚なる今日では不可能です、けれども我内務當局者は陸軍當局者と打合せて、全國に於ける壯丁検査即ち毎年行はれて居ります徴兵検査に就て花柳病患者の數を報告せられます、我國今日の統計では一番これが正確なものと信じて居ります、該報告に準據いたしまして最近九ヶ年間の比例を示します

壯丁千人に對する花柳病患者

明治三十七年	一〇、四一
同三十八年	一二、九三
同三十九年	一六、八三
同四十年	二一、七四
同四十一年	二二、六九
同四十二年	二四、三五
同四十三年	二六、五〇



同 四十四年……………二五、一八  
 同 四十五年……………二五、三二  
 恠ふ云ふ様に、明治三十七年には十人四分一厘（千人に對する比例）なりしものが六年後の明治四十三年には二十六人五分一厘と云ふ驚くべき比例に上つたのであります。それから翌四十四年には少しく減りましたが四十五年には一分四厘増したのです。要するに壯丁検査の花柳病患者数は僅々九ヶ年間に二十四割三分強激増して居るのであります。此比例から我國に於ける花柳病患者の数を概算して見ます時は實に驚くべき數に上ります。又た御参考の爲め明治四十五年の徴兵検査の成績なる壯丁の花柳病罹患率を各地方廳の調査に依りて示しますれば左の如くである。

道廳府縣	北海	東京	大阪	神奈	兵庫	長崎	新潟	群馬	千葉	茨城	栃木	奈良	三
同壯丁千人に對する比例	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇	二八〇
花柳病患者數	一七、二五	二六、七三	二八、七〇	二五、三六	三一、八〇	三五、六九	四七、四五	一四、八三	一五、五三	一六、六三	二七、一九	二七、二二	一八、七〇
	二八、五五	一七、二七	一八、七〇	二七、二二	二七、一九	一六、六三	一五、五三	一四、八三	一五、五三	一六、六三	二七、一九	二七、二二	一八、七〇

愛知	静岡	山梨	滋賀	岐阜	長野	宮城	福島	石川	宮崎	鳥取	島根	岡山	廣島	山口	徳島	香川	愛媛	高知	福岡	佐賀	熊本	鹿兒	沖繩	
二五、六	四、五六	八、五	一、五四	二、四	二、三	一、二	一、九	一、八	一、九	一、六	一、三	一、八	一、六	一、八	一、二	一、七	二、四	二、七	二、九	三、一	三、二	三、三	三、四	三、五
一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇
一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇	一六、〇

合計 一〇、九八一  
 平均 二三四  
 實に懼るべき數ではありませぬか、若し此花柳病を撲滅するの策を講せなかつたならば國民の戦闘力にも多大の影響を及ぼしまして、遂には國民の元氣を銷沈せしめ、恐むべき亡國の兆を呈するに至るであらうと思ひます。故に我輩は此花柳病を亡國病と稱して居ります。他の傳染病は豫防法が行はれて居りますけれど、獨り此花柳病豫防は甚だ等閑に附せられて居ります。爲めに猛烈なる勢を以て蔓延して居ります。實に寒心の至に堪へ難い次第であります。此花柳病の蔓延を防ぐには各自の衛生思想を發達せしめねば不可能と思ひます。

▲花柳病とは何人が名附けし

世の中には名と實と反するものが尠くない、花柳病も亦其部類である、何故なれば只其名を聞くのみには病症甚だ輕きやの感が起る、従がつて左程に賤しむべく憎むべく恐るべき病とも思はれないけれども、其實恐るべく忌むべき病である故に正當の名を附けたなれば亡國病とでも云ふべきか、然るに歐米の醫士社會でも未だ其名稱を冠せないで、却て愛憐病又は愛慕病との異名を附けて居る。名は實の實で、主客相應のものでなければならぬ、然るに縦しや其病源は所謂花柳社會より來れるにもせよ「花柳社會」てふ語が既に間違つて居るのである、花柳社會とは何人が附けた名稱であるか、云ふ迄もなく準色情狂とも云ふべき痴漢共が、幾多の醜業婦を天女と崇拜し、歌舞の菩薩と信仰して、

彼等の異臭を天の芬香と心得、彼等の容姿を花の如く柳の如くに見誤りたる狂人共が名を附けたもので決して正當の名ではないまして恐むべく賤やしむべき大惡病に對して直ちに此美にして優雅なる名稱を附するなんつて實に間違の大なるものである、元來事物の名稱は極めて肝要なもので譬へば猛烈と云へば、少しく文字あるものは直ちに其危險なるを知りて、之を取扱ふ上に於て慎重の態度を取らねば若し他の穩和なる名稱を附し置く時は、自然注意を缺き、従つて危險物を粗略に取扱ひ爲めに禍害を被る者が多いであらう、病名も亦其通りて亡國病とも云ふべき大惡病を指して優美なる名稱の恐るべき事を世人に知らしむる能はざるのみならず、此毒の恐るべき事を世人に知らしむる能はざるのみならず、此名稱あるが爲めに、愚痴無識のハイカラ共をして粹人獨特の病氣だつと心得しめ、此恐むべく恐るべき大惡病の患者たることを自慢するに至らしむ、名實相違の爲に世人の注意を惹く事が出來ずして、世を害すること大なるを悲まざるを得ない要するに我輩が花柳病専門藥房の銘打ちてドラッグ商會を設立しましたのは此花柳病を撲滅させるのみならず唯一の目的であります、故に花柳病の根治薬を發賣するのみならず「オオ」稱する花柳病豫防薬を發賣して居ります、花柳病に關する詳細の談話は梅毒、淋病、軟性下疳の三つに分ちまして御話申します



# 日本の青年百人中の七八十人は 恐るべき亡國病に罹つて居る

醫學博士 岡村龍彦

恐るべき亡國病は、今や世界の新興を問はず、國の文野を擇ばず、社會の階級を論せず有ゆる方面に涉りて、猛烈に蔓延し其害毒を流しつゝある。現に獨逸の如きはブラッソユコーの統計に依れば柏林大學の學生は其の四年間の修業中一回以上花柳病に罹る割合となつて居る、即ち少壯殊に未婚者には多く、且つ生存競争が激烈となつて晩婚の風益々熾なりと其に愈々其害毒を運ぶ傾向があるもので、種々の預防法を講じ、或る聯邦の如きは痲疾ある男子の結婚を嚴禁し、又痲疾は離婚裁判の原因ともなつて居るが著しき預防の効果が見へぬ。其處で近來獨逸の教育家間に於て寧ろ露骨に中學程度以上の學生に向て其害毒を知らしめた方が、却て之を秘密にして置くよりは預防の偉功があるであらうと云ふ議論が大なる勢力を得て來たのである。蓋し機宜を得たる策であらうと思ふ。

## △斬首の嚴罰を以てするも豫防困難

此恐るべき花柳病は今や世界の津々浦々に迄蔓延して居る。而して其除外例は歐洲人の足跡未だ達せざる中央阿弗利加と

餘り文明國民と交通せざるオセアニア洲の二三の島嶼に過ぬ南洋の或る島民の如きは微毒の傳播を怖れて同患者は之を斬首し、其婦女にして歐洲人と交はるものは之を死刑に處すと云つて、歐洲人との交通を嚴禁したさうであるが、滔々たる文化の勢は憚むべき此島民をして遂に無微毒人に終らしめぬであらう。

兎に角、世界に於ては先づ取除けなしに花柳病が蔓延して居ると謂つて宜いのである。蓋し文運の進歩は世界の交通をして自由自在ならしめて萬國は比隣の如く、且は人口繁殖の結果或は遠航遠征を企て、未開の地を探り殖民を計るに汲々たる爲め、絶海の孤島未開の土地に在りて曾て花柳病等を知らざりし人民に迄、其累を及ぼすに至つたのは争ふべからざる事實である、即ち高度に發達せる文明と共に高度に蔓延せる花柳病を有する所謂文明國民に依りて斯くの如く傳播せられた次第である。

## △文明國ほど盛んに蔓延

借て茲に爲政家並に教育家等の注意すべき現象は、文明國に

於て此恐るべき病疫が最も熾んに流行し中流以上の社會に於ても亦驚くべく蔓延して居ることである。

即ち英吉利に於ては他の歐洲諸國に比して却て最も盛んに蔓延し、現に其軍隊に於ける同病者の數は他國の其れに比して其數遙かに多く、千人中二七八・四の高度に達し、微毒は全國民を通じて百人中五四の割合となつて居る、檢査制を廢して以來殊に其蔓延の勢猛烈となつたのだ。

佛國はリコームの説に依れば、男子の八四%が痲病に罹り、又ムリヤックは毎年巴里市に於ては五千乃至八千の人民が微毒に罹ると謂つて居る。

又獨逸に於ては普國政府は曾て國內の醫師に向て治療中の同病者の數を届出づべく命令せるが、其際届出たる者は醫師の全數の六分餘りに過ぎざるも、而かも患者の總數は四萬〇九百二人の多きに達し之を國中の十六七歳以上の男女に當つれば男子は百人中に二十八、二女子は九、四の割合となり、全國を平均して其數一八四、%となる、思ふに實數は以上の三倍位になつて居るであらう。

露西亞に在りては花柳病は大小の都會に不平等に蔓延し、帝都に於ては各人一回以上痲疾に罹つて居る割合である。

デンマークに於ては首府コッペンハーゲンに於て其市民千人中に二〇、一八の患者のある割合になつて居る。

其他以太利、白耳義、西班牙其他の歐洲諸國にも亦均しく盛んに蔓延して居るのである。

## △日本人は一度は罹つて居る

恐るべき花柳病……微毒、痲病及び軟下疳等は今や我上中下

の階級を通じ恐るべき勢を以て蔓延しつゝあり。不幸にして據るべき統計がないから正確なる數字を以て之を證明することは出来ないが、エルドリツチ氏は曾て日本に於ける微毒に就て歐洲に報告せる中に、總ての日本人は其既往症に於て必ず一度は微毒に罹つて居ることを自白せりと云つて其蔓延の勢の猛烈なるに驚いて居る。然し之れは少しく酷論であらうと思ふ。

去りながら自分の経験上から觀察するに、十七八才以上二十六七才の日本人百人中其七八十人は此恐るべき花柳病に罹り若くは罹つたことこの経験を有して居る様に思はるゝ、而して其種類に就ては余の處の外來患者中の花柳病患者の二百五十人程に就て觀るに百人中痲病六九%微毒二五%軟下疳が六%と云ふ割合になつて居る。

## △最も多く感染したる人と場所

其處で如何なる種類の人々か最も多く感染しつゝあるやと云ふに未配偶者であることは各國の一致する所である。ブラッソユコーに依れば男子花柳病患者の七九%が未配偶者、二〇%が配偶者、爾餘が寡妻であり、婦人の四四%が未配偶者、四七%が配偶者、八、五%が寡婦である。

更に年齢より統計するときは、十六七才から三十才迄の間に於て最も花柳病に罹るので、歐洲にても晩婚の爲め殊更に花柳病に傳染することが多い、是れ亦教育家等の大に注目すべき現象であらう。

又此疾病の蔓延状態も國民の性格、風俗、習慣、宗教、生活



法等に關して相違あることは勿論であるが、一般に通じて大都會の貿易場其他商工業の中心とも謂ふべき地方に最も多いのは事實である。

### △一生を誤まれる有爲の青年

借て世間には此恐るべき花柳病の害毒を輕視し、徒らに意馬心猿の狂奔するに委して居る者が少なくない、有爲多望の青年にして一たび此疾病に罹り、爲に或は學業を廢し其前途の方針を更むるに至りし者其數は果してドノ位であらうか、或は社界の諸方面に於て事業に従ふ人にして之れが爲に中折するの止むを得ざるに至りし者其數は幾何であらうか、或は和氣霽然たる家庭も之れが爲には風波を生じ或は連絡たる家系も之れが爲に絶へしもの其數蓋し決して少なくないのである。余は我有爲の青年をして此恐るべき花柳病に接近せざらしめんが爲に、聊か具体的に花柳病の害毒を述べよう。

### △恐るべき害毒を銘せよ

花柳病には軟下疳、淋病及び微毒の三種がある。

(一)軟下疳 傳染してから二三日を経て發するものが普通である。本症は其部分だけの腫瘍であつて唯潰瘍を起す位に止まり、其毒は決して全身に蔓延することなし、且つ適當の治療を施せば速に治癒する。

(二)淋病 男子の淋病は最初注意して能く治療すれば、數週間で全治することが出来るが、屢々患者の不養生と其他の事情から治し難くなり遂に慢性となる。斯病は唯に尿道にのみ限局して居る疾病ではない、病毒は其近傍の種々の器管を侵すのみならず、微菌が血液を傳はりて全身に蔓延することがある。其最も屢々侵すものは膀胱、攝護腺、睪丸等であつて爲に腎臟炎や腹膜炎を起すこともあり時としては又心臓や諸方の關節を犯して危険を來たし、其他リヨウマチス、神經痛や腸脊髓を犯すこともないではない。又淋病の膿が眼に入ると頗る危険なる眼病を起し遂に盲目となることあり、獨逸の眼科學者の説に依れば生來の盲目兒の百人中の七八十人は淋毒の爲めなりと云ふ。其れから淋病の爲に生殖器を害し小兒が出来なくなることも甚だ多い。子の出來ざる者の百人中の六七十人迄は斯病に罹つた者である。

(三)微毒 微毒は花柳病中の最重症である。此病毒は中々頑固であつて、屢々再發することあり、咽喉を糜爛して痛んだり聲が嘎れたり頭痛がしたり頭髪が抜けたり眼が悪くなつたり、種々雑多の症状を起し、遂には内臓に及ぼして心臓、肝臟、腎臟、其他肺胃腸を害し又腸脊髓等の大切な部分を侵す、之れが爲に或はヨイ／＼となり、或は發狂する者さへある。加之、其毒を子孫に傳へ流産、死産、月足らず等の原因となることも多く、又幸にして月満ちて生れたる子も白痴であるとか畸形であつて鼻がつぶれた様になつたり、手足の動かなくなつたりする者があり、大體に於て極めて虚弱である。殊然として恐るべきことではないか。

### △青年の感染する根本的三大原因

借て此恐るべき忌むべき花柳病に我有爲なる青年が感染する

動機は、特に言ふまでもなく誤まつて不潔なる場所に立寄ることが其原因を爲して居る。而して一朝斯かる迷路に踏み入るに至りし根本的原因は何んであるやと云ふに、其主たるものは悪友と不良書籍の感化に基く様である。

如何に青春の血燃ゆ、意馬心猿狂ふも、初めから單獨で惡所に足を踏み入る者は少なからう。多くは悪友の誘引手引に基くので、先づ酒樓に誘引せられて、初めて酒杯を手にすることを習ひ、斯くて酒氣の爲に其良心を麻痺せる當人は、次に容易に惡所に誘引せられて遂に花柳病に傳染するに至るのである。

又醜惡なる小説類を耽讀して墮落せる青年が少なくない。然ゆゑるが如き青年の熱情は常に空所を覗ふて墮落せんとしつゝあるのである。然るに其際之を刺激するが如き不良なる小説類を讀くは恰も薪に油を注ぐに異ならず、遂に惡魔の捕虜となりて一生を誤るに至るのである。

### △感謝すべき亡父の訓戒

故に余等の亡父は以上の二點に對して、余等の小供の時代から特に嚴訓せられたものであつた。學校以外の書物としては西國立志編を何ん度も讀まされたものである。余は之れを耽讀して常に精神を向上する上に於て少なからず利益を得た。後に思ふ、從て余は世上多くの青年に向ても、亦健全なる書籍を讀かんことを勧むる。偉人傑士の傳記類などは最も適當であらう。苟も前途大に爲す有るの青年は斷じて醜惡なる小説や其他の不良なる新聞雜誌の記事に眼を墮さぬことを心掛け

ねばならぬ。又友人の事に就ては常に亡父から訓諭されたものであつた。何れ非常に嚴格なる人で、少しでも學校からの帰宅時間に遅れば直に詰問せられた位であつたから、自然惡友と交はるなぞと云ふ機會がなかつた。是れ亦余が常に亡父に向て感謝して居る所である。ドクか青年諸君が人と交はるに當りて能く其友を選ばんことを望むのである。濫交も遂には墮落の動機となることを忘れてはならぬ。

### △肉食より却つて運動せよ

借て近來は肉食流行の世の中で學生中には、是非共肉食をせなければ健康の維持せられざるが如く想像して居る者が少なくない。成程肉食は滋養分が多いから身体の攝生になるには相違ないが、血氣の青年迄が之を飽食せなければ健康が維持せられない程のものではない。青春の血燃るが如き青年は爾く肉食せざるも適度の運動に依りて格に健康が維持せらる。加之、肉食を飽食する結果腸胃、情火を燃やすこととなり、遂に意馬心猿の狂ひ始むる動機ともなるのであるから寧ろ肉食を飽食せぬ方が宜しからうと思ふ。且つ肉食を飽食せざれば自ら食費を節約することが出来るから一舉兩得となるであらうと思ふ。

### △斯くして心氣を一轉せよ

其れから情慾を抑轉するに簡便なる方法としては、心氣を一轉する工夫が一番宜しからう。如何に血氣燃ゆるの青年と雖も



二六時中情慾の勃興するものではない、病的でない以上は、蓋し或る陰鬱なる感念の生じたる瞬間に勃興するものであるから、そう云ふ場合には忽ち心氣を一轉して之を腦中より一掃して仕舞ふ分別工夫が必要である、其れにしては運動するの最も簡便であらう、情念勃興せる瞬間、直に戶外に飛び

出して清新なる空氣を呼吸しつゝ、一と運動すべしである。直に快活なる精神を回復して邪念を忘るゝであらう、情念萌せるに拘らず陰鬱なる室内に靜坐すればこそ遂に不自然の行爲を敢てするに至るのである、何でも居常精神を壯快にして斯る邪念の萌すことを豫防することが肝要である。

## 花柳病の話

醫科大學教授醫學博士 旭憲吉講演

▲花柳病とは何ぞや ▲花柳病は何故に恐ろしきか ▲花柳病の症狀

▲花柳病は如何にして豫防し得るか ▲花柳病は六百六號

扱て御話の題は花柳病の話でありまして之を運びましたのは御承知の通り此病氣は人間の弱味に陥込むと云ふ甚だ「ケシカラヌ」もので教育のない人は元より相當或は其以上の地位ある人でも自ら好んで此病の俘虜になりたがると云ふ傾きがありますから人類の社會には益々蔓延しまして今後如何なる程度まで進みますか豫想の出來ぬ位であります殊に世の中が文明になればなる程此病氣の蔓延は甚だしくなりますから西洋は元より我國に於きましては先輩の諸君が何かして之を社會の外に逐出す工風はないかと云ふ事からして我國でも遂に明

治三十九年花柳病豫防會と云ふ會が出来て年々専門家が集つて協力をこらし又一方には専門の智識を普及する目的にて講習會を開き現に昨年迄に都合五回やりました即ち此専門家が夫れだけ殖へた譯で實に喜ばしき次第であります夫でありますから専門家である云ふ末輩の私も拱手傍觀する譯には参りません次第で折があつたら御話を致し御参考に供したいと思ふて居りました處が今回又と得られぬ機會に遭ひましたから不才をも顧みませず花柳病は何んなものであるか又どうすれば豫防が出来るかと云ふ事を御話したいと思ひまして此

題を撰んだ次第であります即ち幾分か是によりまして自分の義務が幾分かを果さうと云ふ野心であります扱て本論に入る前に御断り申さねばなりません事は單に花柳病の話と云ふても中々廣う御座いまして到底短い時間では云ひ盡されぬので殊に私は生來不辨舌でありますから御満足が出来る様御話が出來ぬは甚だ遺憾千萬であります又斯様な御話は活動の辯士か何かなれば流暢なる云ひ廻して極く面白く出来ましようが未だ通俗のお話をした事のない私には左様な藝當があり様等がありませんから御断り致しますは病氣の性質上必ず品の良くない言葉が出るのでありまして清らかなる御感じを殺ぐ恐れは必ずあるだらうと信じます是は學術上の御話と御思召て御辛抱あらんことを豫め御断り致し置きます、借て花柳病の御話を次の五つに分けて其順序で簡單に述べ様と思ひますから、どうか二時間ばかり御清聴を願ひます

### ▲花柳病とは何ぞや

一體花柳病と云へば皆様は「梅毒」か云ふ御考へになりま

### ▲花柳病は何故に恐るべきか

此事に關しましては以上述べた三種の病氣がどの位蔓延して居るか云ふこと、次の症狀を御話すれば大抵御分りになる

ン兩氏より發見せられました「スビロヘーテ、バルリダ」と云ふ原生動物種々の下等動物の一種から起るもので其形は愛に掲げた様な形をして居ります(圖解)兩端の細く尖りて全體は「コロッツ」抜の形をしたもので長軸に沿つて運動をします此者が傷の處から入り込んで遂に血液の中に混りて全身に擴がるのであります、之はギムザと云ふ色素で染た標本で之を多きく寫したので簡單なのは上等の墨汁で染ると能く判る、次に下疳は明治二十二年にジユクレー氏が發見しました桿菌と云ふ一種の細長き微菌から起る病氣であります其微菌の形は斯様な形をして居ります(圖解)細長い兩端が少しく膨らんだ真中が窄れた亞鈴形をなしたものが幾十となく鎖の様に繋がつて居るものであります此下疳を軟性下疳と學名では云ひます是は元と陰部に傷が出来ると皆同じものと思ひ之を下疳即ち「カンソー」と申しましたが漸々學問が進んで來るに従つて下疳にも硬いものと軟かいのとあつて全く別物である云ふ事が分つてから硬い方が梅毒で軟かいのが軟性下疳と云ふ様になつたのである、次は淋病で之は明治十二年ナイセル氏が發見した「ゴノコクケン」と云ふ蠶豆を二つ向合せた様な形をして居る(圖解)此者は好んで男女の尿道に來て其處に寄るものであります



と思ひます先づ第一に其蔓延の状況はどうかと云ふに是れは我國は固より西洋にても確實な統計がありません夫れは兎角花柳病に罹るに自ら愧ぢて手療治をするから醫者に診て貰ふものが少ないから醫者の處へ来る病人を調べても確かな者でない嘗て今から十四年前に「コッペンハーゲン」と云ふ處で四月一日を期し其日に醫者に來た花柳病患者の数を調べた事がありましたが一丈に四萬一千人と云ふ事が分つた然し之れでも醫者の四分の一は報告を送らなかつたし又た四月一日に丁度用事があつて醫者の處へ行かなかつた者もあり又た手療治をやつて居たものもあるから實際は四萬一千人より餘計あるものと見做さなければならぬ是れほんの一例を御話した丈で斯様に調査が困難であるからして世界の何れの國でも住民千人に對して何人であるか云ふ数字で表はすことが出来ぬのであるそこで我々の現今皮膚病學及微毒學調査の設けられてある東京京都九州の三大學の統計を最も正確のものとし之に満足するより外に道はないのであります先づ東京大學に於きましては其皮膚科教室に於ける外來患者百に對する花柳病患者の比例率は二五、二であつて更に花柳病患者百に對する三種疾患者の比例率は梅毒四四、六、麻疾四六、七、軟性下疳八、五であり、次に京都大學に於きましては外來患者百に對し花柳病患者の率が一八、〇で三種疾患者の率は梅毒三六、麻疾五五、軟性下疳九、を、次に九州大學には花柳病患者率が二五、四で梅毒三九、四、麻疾五三、二、軟性下疳七、四を示して居ります即ち三大學中花柳病患者率の最大なるは九州の二五、四で東京の二五、二之に次ぎ京都の一八、〇は

著しく少数を示し三種疾患中では何れも麻疾最も多く軟性下疳最も少いのは略一致して居ります各大學に於ける統計以外に尙一つ正確として信據すべきは軍隊に於ける統計で即ち兵卒と花柳病との關係でありますが之に關し獨逸國「ブラシユコー」氏の調査による次の表の通である即ち兵卒千人に對して

英吉利兵	二五一人	伊太利兵	一〇二人
日本兵	七七人	埃太利亞兵	七三人
北米兵	六四人	佛國兵	五八人
露國兵	四二人	獨國兵	三五人

以上の數が出て居る、我々の軍隊は三番目で英吉利が一番多い、之は同國では檢査制度を廢したからであらうが獨逸の最小數は表を作つた人が獨逸人だから大に手心があひしなにかと思ふのです他國の事は拙て我國の陸軍では實際どの位あるかと云ふに是れは毎年徵兵檢査があるから比較的精密な調査が出来て居る

▲壯丁檢査と花柳病 (千分比例)

三十七年	一〇、四一	三十八年	一一、六五
三十九年	一六、八三	四十年	二一、七四
四十一年	二二、六九		

▲京都に於る郡市の壯丁檢査

年度	受驗人員	花柳病者	百人に付
三十七年	八五九四人	八七人	一
三十八年	七七九七人	一七〇人	二
三十九年	七二五三人	二一六人	三
四十年	七七三九人	二五二人	三

以上は四十年迄であるが漸次花柳病患者の増して行く有様が能く分る殊に近來になつてからは徵兵檢査前に花柳病のものゝ夫々注意を受けて檢査迄に醫師の治療を受ける様になつて居るにも拘はらず昨年の如きは全國共に花柳病患者の數が増して居つたと云ふ事である、尙ほ今の陸軍の衛生課長をして居らるゝ山田弘倫氏は我々と同じ専門家であるからして大變此點に注意して調べて居らるゝが嘗て新兵則ち檢査に合格した者に就て一々是迄婦人に接して局部に傷を受けた事のあるものを百人中に九人の割合に又た麻病に罹つた事のあるものを又尿を見て確かに麻病に罹つて居るものを(我々は尿を見れば麻病を持つて居るものは直に分る)調べたに同じ割合であつたと云つて居る又た檢査の時に花柳病の爲め三種となつた者が千人に四人位の割合であり又入營した後に花柳病の爲めに除隊になつたものも千人に四人位の割合になつて居る殊に近衛師團では六人の割合、甚しいのは第七師團では八人の割合になつて居るやうです、此外色々の統計もありませんが略して徵兵檢査に不合格となるものが約三分の一であること云ふ事でも實に驚くべき數でありますと毎年檢査を受けるものを一萬人とすれば其中の三千人が花柳病に罹つて居る譯で頗る國家前途の爲めに悲むべき現象ではありませぬか以上は兵卒に就て御話をしましたが兵卒以外でも是と同じ様な事實があるもので夫れは花柳病は性質からして青年が罹るもので我々の教室で調べた結果によるも廿歳から卅歳迄のものが一番多くて百人中に六十三人位の割合になつて居るので分る、近く京都大學で患者三百十人に就て調べた結果は

二十歳未満三十八人、廿歳より廿五歳迄百二十九人、廿六歳より三十歳迄八十二人、三十一歳より四十歳迄四十五人、四十一歳より五十歳迄八人、五十一歳より六十歳迄六人、そうするとは是等働き盛りの是れから社會に立つて活動を初め様と云ふ年ばいの者が百人の内六十三人花柳病の爲めに役に立たぬ事となるので實に容易ならぬ次第である新聞雜誌の廣告を見ても分る、以上は男の方で女の花柳病患者も同じ様に多いに相違ないのであるが我々の調べた處では約男の七分の一となつて居るが是れは女の性質からして大學へは來ないから實際は同數位と想像して居ります、以上は大體花柳病が擴がつて居ると云ふ事が何故に恐ろしいか即ち人間が花柳病に罹つたならば如何なる害を蒙るか云ふ事が何故に恐ろしいか即ち人間が花柳病に罹つたならば如何なる害を蒙るか云ふ事は次の花柳病の病狀を申せば御分りになると思ふのです

### 花柳病の症狀

此順序は軽いものから漸次重いものを申上げる積りで梅毒と麻疾とは敢て何れが重いか輕いかは俄かに判斷できませんが麻疾は世人が頗る輕視する傾があつて甚しきに至ては麻病をやらなければ一人前の男になれぬなど、言語同斷の事を申すから之を一番後に廻します

サテ軟性下疳は不正の交媾後兩三日にして局部に膿を持つた水泡が出来ます之が二十四時間即ち一日經と破れて比較的深い潰瘍が出来ますそれは恰ど蝨の吸盤の様で縁は鼠の嚙た様にきざ／＼して居り全体が腫ではせくつた様である然し指の



間であつても軟性下疳の名があります此病氣が何故輕いかと云に三大學統計にある通り百人中七人乃至九人位であるにても分る又た梅毒と異つて局處或は夫れの近くにある麻巴腺を犯すに止まりて決して全身に蔓延せぬからである従て大抵の場合殊に適當なる治療を施すと餘り大きくならず全治しますが時とする他の微菌が混ると局部の皮が腐つてバナ、の様にすつかり無なつてしまふのみならず甚だしくなると蠟燭の段々なくなる様に皮ばかりでなく身までがされてしまふ様になります、そうなるに熱が起つて所謂全身病となる尙ほ進んでは敗血症と云ふて悪血が全身に循り其爲めに死ぬ様な事があるから決して輕いと思つて油断は出来ぬ夫れに軟性下疳には必ず附物として横痃即ち「ヨコネ」と云ふ者が出来る之は股の附根の處にグリ／＼が出来夫れが段々大きくなり赤くなつて痛みが出来て歩行けなくなり仕舞には外に破れて夫れが治るには數ヶ月かかる然し之れも適當の時期に治療すれば引込んで行く能く素人の方が成る丈け故意に膿ませて其處から膿が出る病氣がなくなると云ふ迷信から今迄座業を取つて居た人達が急に運動をやり労働をやり甚しきは〇〇神社の石垣の上から飛んだなど、亂暴をする人があるが之は尤も注意すべき事て決して藥品でグリ／＼を散らして身體を損ふ様な事なく且づ手術でもすれば終世拭ふべからざる瘡痕を股の附根に残す様になるのである

次に梅毒であるが是は分り易い様に第一期梅毒、第二期梅毒、第三期梅毒、遺傳梅毒との四つに分つて御話をしようと思ふ梅毒は傳染病であるから外のチブスなどの様に病氣の潜んで

居る潜伏期と云ふがある之れは軟性下疳と異つて三週間経つと局部に豌豆を二つ切りにした様な物が出来る夫れが段々真中から營養が悪くなつて穴があくと蝸の吸盤の様になるけれども此者は指にてつまむと硬い夫れで硬性下疳と云ふのである夫れから或る一定期間の間病氣が潜んで居る第二期梅毒がいつて其間に「スピロヘータ」が血中に入り込んで血と共に全身に廻り全身病となる即ち第二期となるのであるから第一期梅毒とは感染してから全身に行渡る迄を云ふのである第二期梅毒即ち全身病となる第一に現はれて来るのが奇麗な色をした薄赤い瘡も何共ないものが全身に出て来る、當人は一向知らないが湯にでも入ると他人から君の身體に妙なものが出来て居るではないかと注意をされて始めて気が附くのである之を蕪微疹と云ふて皮膚と同じ高きの斑紋である夫れが後に皮膚から高くなつて丘疹と云ふものが出来るし又た皮膚の處に色素が増したり減つたりする之れは別室にある色々の標本を見て頂きたい斯様に第二期梅毒と云ふものは感染後三ヶ月位から初まつて二三年乃至四五年續くと今度は第三期梅毒となるのである此移行も區別がチャント附て居つて第三期梅毒になつても皮膚に腫物が出来るが第二期のものとは異つてをる第二期のものでは適當の治療をやる元の通り治つて少しも跡が残らないが第三期のものになると必ず跡が残る然し第二期梅毒にも悪性梅毒と云ふものがある之れは結核に罹つて居る人とか他の病氣で體の衰弱して居る人か大酒飲みとか又は人種の異つた外國人や支那人又は九州では近い朝鮮人から梅毒を受けると悪性のものとなり適當の治療をして

痕が残る之れも別室に標本を置てありますから歸りに見て下さい第三期になると皮膚や口内、肛門とか云ふ所のみでなく骨迄犯される所謂骨がらみと云ふのが起る其他體内にある肺、心臓、腎臓、肝臓、脾臓等其他の神経、血管、關節など犯され仕舞には尤も大切な臓がやられると卒中が起る卒中とは通例六十位の人で大酒飲みに来るのであるが梅毒から来るものは二十五六から三十位の人にやつて来る夫から春髓と云ふ「ヨイ／＼」となつたり「デメンチヤ」と云ふ阿呆になる病氣になる實に恐ろしいものである内臓の梅毒の標本は本學病理教室から中山教授の御厚意により拜借して来たもので別室に陳列してありますから御覽下さい梅毒は此他危険であるのは子孫に遺傳すること、両親に微毒あれば無論であるが父母の何れにかあつても必ず子供に遺傳する又た両親が健全であつても子供が胎内にある時に母親が梅毒にかかると胎盤と云つて子供の産れた後に後産と云ふて出て来るものを通して子供が梅毒を遺傳する其他遺傳する方法は幾つもありませんが茲に略しまして然らば子供は斯様な時如何なる運命となるかと云ふに第一に流産を云ふて子供が流れる次は早産とて早く産れて育たない次に九ヶ月位に産れて萎縮した骸だらけな年寄りの様な顔をした弱い子供が生れる又は膿を持つた水泡を全身殊に手の掌又は足の裏に持つて所謂遺傳梅毒症候を呈はして生れる又は折角生れた子供が十二、三歳になると突然第三期梅毒に來る様な骨「ガラミ」が出来鼻などに來ると鞍鼻と云ふ鼻柱が引込で醜い顔になる誠に可愛相なるものである

次は癩病である之も交絡してから二、三日乃至一週間の中に

尿道とて小用の出る道がムグ痒くなりて膿が出て来る初めは淡いが漸々膿くなり黄味になり仕舞には緑色になる烈しくなると血膿が出て来る様になる處が癩病は不幸にも早く膿は止まる私が不幸と云ふのは若し膿が何つ迄も引續き出ればもつと恐しがるに相違ないが割合に早く膿が止む爲め素人は治つたものと思ふ然し之れは治つていない其證據には尿をさして見ると綿屑の様なものがあるので癩病と云ふことが分る、斯様にして癩病は慢性になるそうすると近處の色々の部分に害を齎す第一に膀胱と云つて小便の滯る處から段々上つて行き遂に腎臓病となる又た次には尿道の周りにある攝護腺を犯し又た睾丸とて精虫の製造所を襲ひ子孫繁殖の源を涸らし其結果は不妊症とて子供が出来なくなる女の方では子宮から卵巣とて子種のある處又は喇叭管途には腹膜を襲ふ能く女が妊娠した跡で急に熱が出て死ぬる事があるのは他の病氣もありましようが癩病から來るのは少なくないのである斯様に子宮などが犯されると女は耻敷と云ふ一點張で治療をせずには置くと顔色が悪くなり氣が鬱々「ヒステリー」になるのである、男でも同じ様に尿道の奥が犯されると其處に綿の頭の様な形をした精阜と云ふ處に變化が來るので此處は色々の神経が集つて居る處であるから腦又は脊髄を刺戟して陰萎と云ふて勃起せぬ様になり早漏れがするのみならず仕舞には眠れなくなり仕事が出来なくなり記憶力が減じ頭痛がしたりヒポコンデリ一症とか進んで鬱憂症と云ふ様になり精神病に段々近附いて來る之を情慾性神経衰弱症と云ふのであります私は敢て我田引水説を云ふのではないが近來青年に神經衰弱が多くなつた



様であるが其原因は果して何であるか成程學科が殖へて負擔が重くなつたから試験に腦を使ふからだなど云ふのは果して其通りであらうが若し然りと云へばどうしよう願ふ必要意千萬の語で試験が来たからとて盜竊的にやるからである、  
縦し亦た假りに一步を譲つて勉強の結果で腦が悪くなつたとすれば大に考ふ可き事である青年が我々の後継者として第一國民たるの資格あるものでしようか實に心細い次第であります私には否な敵は本能寺にありて此情慾性神經衰弱症が大に與つて力があると思ひます其證據にはある有名な學校の体格検査の際小便を一々調べた結果其三分の二位疑はしき者を見たこと云ふ事でも分ると思ふのであります是は餘事に涉りませんが憂延程度の一端を窺ふ事が出来ると思ひます  
痲痺は以上述べた外に他の花柳病と同じく全身病となる事が往々あります夫れは關節がはれて仕舞には屈らなくなつたり尙恐ろしいのは心臟が犯されて急に死ぬ事があります

### 花柳病は如何にして豫防し得るか

之が本日の大眼目である今日の醫學は最早病氣を治療すること云ふ丈の本能ではなく此病氣を未發に防ぐこと云ふ即ち天の未だ雨降らざるに早く扇戸を閉すと云ふ事が大切である如何にすれば此病氣は豫防し得るか云ふ即ち此項を御話する爲め今迄のは夫れの前程であつたのであります以上症狀の處で述べたる通り花柳病は三つ共に傳染するのは肉体的の交りに當つてのみ起るので稀には間接に即ち色々の道具煙管だとか

的豫防法と云ふものであるが哀い哉目下の狀態では頗る不完全極まるので制度が宜敷ない騙梅院を立て、檢梅しても頭のない之が制度的悪い處で月給を安くするから起る事である之は餘事であるが政府がやる以上は此專門科を正科とし各醫學專門學校に設けて智識を得せしめて後ち專門に従事した人を頭に立てやらなければ到底駄目である殊に福岡の如き此兩三年の間に長大足の進歩發展を爲し九州の咽喉地となり海陸共に交通の便は開け殊に近來は遊覽地となさん計畫ある様聞及んで居ります尙更當局者に於て一顧を煩はし度いと思ひます、して見ると他の豫防法に依らなければならぬ即ち銘々各自に己の身を豫防するのである其方法は幾通りもある或は消毒薬を含んで居る膏藥或は油類を局部に塗布するとか或は袋をかぶせるとか交をした後に消毒薬で洗ふとか或は殺菌薬を尿道の中に注入するとか色々の方法があります時間がありませんから詳しく述べません且つ御話をした處で實行が六ヶ敷し實際安全の者でないからである其證據は獨逸の伯林では斯様の器械なり藥品を盛に用ゐて居るにも拘はらず伯林の學生が一番澤山花柳病に罹つて居るのを見ても分る  
然らば最も安全なる豫防法とは何かと云ふにそう云ふ危険の處へ近寄らぬ事である夫をするには一定年配に至れば結婚さするのである然し是れとても餘り早過ぎると早婚と云ふて色々の弊害が伴つて来るし又漸次世が進むに従つて生活難と云ふものがあつて之が邪魔をして早くて廿五歳其れ以上でなければ結婚が出来なくなる然し一方には人間には春情發動期と

云ふとか、楊枝とかで又は接吻とかで起るが之れは極めて少數であるから主なるものは肉交で人より人に觸れて傳染するのである、從て其源は貴淫婦即ち娼妓、藝妓、酌婦であることは分り切つて居る夫れなれば斯る者どもが無くなれば譯もない次第であるが之が借てソールハいかの世の中には道徳論者があつて廢娼論を唱へて居る殊に近頃では天候の如何なる怒に觸れた者やら東京の吉原、洲崎又た大阪の難波新地などと云ふ有名な大きな廓が丸境をして居る夫れに附込んだ救世軍と云ふのが頻りに廢娼論を擔ぎ廻つて居る少しは効力があること云ふ事だが成功はどうか知らず恐くは不成功に終らしないかと心配する然し私は救世軍に反對の譯ではないので誤解されてはこまるが私の考は一度娼妓になつて久しい間放縱な生活に馴れて教育もなければ手工等も覺へて居らぬ者が一度表向廢業しても正業に従事するであらうか之れが問題で恐く通町邊舊柳町邊の魔窟に身を投ずるが落ではいかさうするに檢梅と云ふ事が強制せられぬ唯昨年改正になつた行政執行法第三條で見附かり次第均引して病氣のあるものは治療せしめること云ふ位では甚だ心細い次第であるから此點を能く研究してから掛つて貰ひたいと思ふ廢娼と云ふ事が出来るならば是程結構な事はないが或人が之を評して娼妓を全廢するのは丁度家に便所のある様な者で便所が汚いから取つてしまへ云ふて取つたらどうだらうと云ふて居ますが誠に評し得て妙であると思ふのである

云ふて一定の年限に達すると生殖器が發達して聲變りをして色氣が出る即ち情慾と云ふ者が起つて来る從つて之を一定の年迄即ち結婚でもする迄抑へ附けて置かなければならぬ即ち情慾抑制を務めなければならぬ詰まり花柳病の蔓延するのは若い人が花柳病と云ふものはどの位恐ろしいものでどの位危険なものであるかと云ふ事を知らぬのと一方には情慾を抑制する意志がないからである  
さて此情慾を抑制することに就て色々専門家の意見があつて抑制するために身体の健康を損ずるかの様に云つて居る人があるが夫れは一方に偏した考へで我々の考へます處では決して害を來さぬと信じて居ります人間の身体は微妙に作られてあるからして其れに代るものがある夫れは遺精と云つて妄想の事である若い人が月々一度や二度あつても決して意に介することはいらぬ然し毎晩あるとか月に十回以上もあると云へば之れは何か外に病氣のあるさざしだから醫師に診察をして貰ふがよい、夫れよりも不健康な人は尙更此情慾を抑制した方が身体の爲めに良い、情慾を禁じて居ると夫れ丈のエネルギー即ち潛勢力を他の事に應用する事が出来る運動なり勉強なりに精力を充分に使つて他人より餘計に仕事が出来ると又情慾を抑制するには運動なり勉強なりに身体を適宜に使ふに限るのである唯遊惰に流れて遊んで居ると碌な考へを起さぬ様になるから大に此點を慎まねばならぬ、此事は曾に青年の者許りでなく已に結婚して居るものにも、同じ理で可成情慾を抑制するが宜い、夫れに私が尙一つ附加へて置きたいのは飲酒をも抑制することである酒を絶體的止めろとは申しま



せん適度に止めて置かんと多量になると折角抑制をした者も心が亂れて来る、其處へ悪友が誘ふと其氣になると云ふ事と酒を飲むと交りが長引くから従つて花柳病に罹り易くなるの事、又前刻御話した通り花柳病が酒飲みの人に傳染する悪性のものとなること云ふ種々の危険が伴ふから色と酒とは百毒の長たる事を考へて貰ひたいと思ふのであります

### ▲花柳病と六百〇六號

六百〇六號と云ふと花柳病の治療法でも話をするかとお考への方もあるかも知らんが治療法の話は害があつて益がない止むを得ず病氣に罹かつたら専門の醫師に就て適當の治療を受けて出来得る限り一日も早く全快する様に努められたい恥づかしいと云ふ氣からして手療治をする事は決してなき様に望みます、殊に陸軍などで三等症と云ふ不名譽の將來の成績にも係はる様に取扱はれると一方には益々花柳病の蔓延する様になるから出来たものなれば仕方なしとて能く將來を戒めて治療せらるゝ事を望むのである且は殊に花柳病に罹つた者のみが制裁を受けるなれば夫れは自業自得でも云ひ得るが罪もなき家族の者に傳染せしめ又進んで子孫に迄も禍を及ぼすと云ふ事は人道から云へば不届至極の事であるから此點に殊に注意せられたい。

そこで六百六號の御話をして此講演を終らうと思ひます此六百六號とは有名な薬であるから諸君は既に御承知であります是はエーワヒと云ふ獨逸の大家が梅毒の如きスピロヘーテの

様な原生動物から起る病氣は薬品でなければ治らぬと云ふ考へから種々の薬を作られて其六百六號が出来上つたから此名があるの、此薬品を實際梅毒に使つて有効であること云ふ事を證明した人は泰佐八郎君であるのである實に日本人の胃味が廣い次第で喜ばしき事である、處が此薬の發明された頃では新聞で御承知の通り一週注射すると梅毒がすつかり治はると云ふので大評判であつたが實際使つて見ると効力はあるが全治せない勿論此薬の用ひ方には色々あつて皮下に注射するの、肉の中に注射するの、血の中に接直注射するのの三つがあるを考へて其中に安全の方法として皮下と筋肉内とをやつたが成績がよくないのみならず注射した處に膿を持つて後で切開しなければならぬ様になつたから今日では主に血の中に注射します之は痛もなく且一番能く効くのである唯消毒を嚴重にしなければならぬと云事が大切であるのと六ヶ敷のであるから餘程専門の確な人に治療を受けんと不測の害を來さんとも限りませんが一寸一言附加へて置ます然し血の中に注射するにしても一度では決して治らぬ我教室では三回位一週間置にやつて未だ安心が出来ぬから夫に引續き水銀と沃度劑とでつまり從來の方法を行つて居る之が六百六號に對する目下の状態であるから決して我に六百六號あり花柳病恐るるに足らんやと云ふが如き不了見のなからん事を切に望む次第であります

甚だ手下の長談議で恐縮の至りでありましたが、今迄御話をした事を御記憶下されて、花柳病は如何に危険なるものであるかを御知りになつて頂けば私の喜びは此上もない仕合であります(完)

### 既往一年間に於ける

### サルワルサン(六〇六號)の治験

醫學博士 土肥 慶三  
醫學博士 田中 友治

本編は明治四十三年七月より四十四年八月に至る一年有餘日の間に東京醫科大學皮膚科教室に於て「サルワルサン」の皮下、筋肉及び静脈注射を行ひたる患者合計三百三十一名の治療成績に基づき其の價値を論評して獨逸醫學選報に寄稿し千九百十一年十一月三十日刊行同誌第四十八號に掲載せられたる者也

本編の内容は患者の分類、注射の方法、薬液の分量、副作用の種類等に説き起し、悪性梅毒に對する顯著なる治験成績を本劑との關係を病歴及び略表に據りて説明し、最後に本劑の「スピロヘーテ」に對する直接作用、皮膚、筋組織及び静脈壁に於ける局處傷害等を引證し終りに次の如く結論せるものなり

(一) 微毒療法は「サルワルサン」の發見するに至り、新に行はれる効なる水銀代用品を發見せり、其の主要なる長所を擧ぐれば

- (イ) 直接に「スピロヘーテ、パルラダ」を殺滅して、都ての微毒疹殊に初期硬結及膿腫に水銀を應用するよりも遙かに迅速に吸収せしむ
- (ロ) 微毒及び繼發微毒の自覺症状をも亦た頗る良好に輕快せしむ
- (ハ) 悪性梅毒に對しては「サルワルサン」は真正の特効薬たり
- (ニ) 微毒の頓挫療法にも亦た頗る適當すべし
- (三) 然れども「サルワルサン」が微毒の理想的良薬たるに於ては及ばざること、遠しと謂はざるべからず、何となれば(イ)吾輩自家及び他諸大家の経験の示す如く「サルワルサン」の頻回注射並に大量の使用後に於ても微毒疹の再發を來すこと稀ならず、且つ注



# 射後僅かに數週以内に再發することあり

(ロ)ワッセルマン反應は概して「ナルワルタン」の數回使用の後始めて陰性となり、而かも此際多少の時日を経れば再び陽性に復することあり

(三)是に由て之を觀れば「ナルワルタン」を以て微毒の全

治を期せんと欲せば、數週、數月又は恐らく數年の間に頻回反復使用せざるべからざること猶吾人が數十年來實用する水銀の如くならざるべからずと信ず、唯使用の方法に就て兩者の間稍や繁簡の差あるのみ

(四)注射法に就ては以上吾輩の實驗的及び臨床的觀察に基きて靜脈注射を最良と爲す

(五)「ナルワルタン」と水銀との併用法は目下最も有効の驅微療法に似たり

## 六〇六號は駄目

ドラッグ商會 横山 峰一

士肥田中兩醫學博士の報告によりて六〇六號は一回の注射で梅毒が全治しないことが明かに判明しました、初めエールワッセルマン博士と泰博士とに依りて六〇六號を發見せらるゝや非常の評判で、如何なる難症の梅毒も只一回の注射で全治するとの新聞が大提灯を持つたものだから、實際斯る効能があるならば梅毒の根を絶やすことが出来ると思ふ人も大に喜んで居たのである、然るに其後六〇六號注射の爲めに死亡したものがあり、盲目となつたものがあり、黄痰を起したものがあつて種々の餘病を惹き起しますので一般に危険薬であるとの恐を懐かせました、當時六〇六號は藥液を瓶に詰めて居たので

すが保存方法が充分に研究せられて居なかつたので往々酸化の懼があらはれた然るにエールワッセルマン氏はネオナルワルタンと稱して粉薬に致されましたから保存方法は心配がいらぬこととなりました、されど六〇六號は初期の梅毒には奏効が見へますけれど第二期第三期の梅毒にはドーも効能が薄いので水銀劑と併用せねば効かないとの説が世界一般の専門大家に依りて唱へられて居ります一初期梅毒でも一回の注射で全治するは殆ど稀で、多くは三回、四回注射しても全治しない續し四回で全治するにしても費用が莫大にいらしますから到底貧乏人は注射して貰ふことは出来ませぬ

六〇六號の注射をして貰ふには中々費用を要します、大學病院に入りまして、ワッセルマン氏の反應試驗を受け、梅毒と云ふ事が確定せられ、餘病がないと云ふ事も診斷せられた揚句に六〇六號を注射して貰ふのですが、それに要する費用がザット六拾圓かゝります、それから一週間又は二週間毎にワッセルマン氏の反應試驗を行つて貰ひ二回三回四回の注射を受ける、場合には二百圓餘りの金を要するので、それでも全治すれば宜しいけれど諸合はれないのだから一寸考へるものです

普通町醫などが六〇六號を種にボロイ金儲けをすべく、一回拾五圓乃至二拾圓の注射料で注射して居りますが、彼等はワッセルマン氏の反應試驗を行はないうで注射するので、實に危険至極であります、彼等は金を儲けることにはばかり熱心して居りますから、後は野となれ山となれで盲目蛇に恐ぢず的の振舞を演じて居るのです、要するに六〇六號は疑問薬で今尙研究中ですから、貴重なる生命を試験臺に上ぼす事は大

に考へるものであります、他に梅毒を根治せしむる内服薬がないならば、危険を犯しても六〇六號の注射を請はねばならぬけれど、商會の製劑即ち特製疾毒滅、第一號疾毒滅、第二號疾毒滅の如き根治薬がありますから、危険を犯す必要はありません、一体内服薬は効能が弱面に現はれないけれど五週間乃至十五週間位連服したならば梅毒の微菌が体内に生息する事が出来なくなり、微菌を體外に驅逐し、病源を根絶即ち全滅せしむるので

要するに六〇六號を注射すれば蛇度梅毒を根治するに定まつて居るならば危険を犯しても注射しなければならぬけれど治癒した例は極めて少なく、餘病を惹起した例は極めて多いのですから、六〇六號は頗る懸念を置いたのです、兎に角六〇六號は今尙試驗中で今後幾多の改良を加へれば完全なる根治薬となるかも知れませぬけれど、今日の處では駄目であると斷言しても決して過言でないかと確く信じて疑ひませぬ

## 梅毒談

ドラッグ商會主 有田 音松 講演

梅毒の原因は不明でありましたが近頃に至りシャウデン、ホフマン二氏が其病原體を發見しスピロヘーテ、バルリダと名づけられました、梅毒は傳染するものです、今其傳染の模様

を述べれば(一)直接傳染で、之が爲めに起る場合が最も多い、即ち男女の交接時に對手の陰部に出來て居る梅毒が健康者の陰部の小さな疵に入つて傳染するのです、詳しく云へば、



交接時相互の陰部に觸れてる中に、陰部の皮膚が薄くから小  
 さな疵が出来、それより侵入するのである(二)接吻の爲めに  
 傳染することもあります、之は梅毒の第二期の潰瘍が口中や  
 口唇に出来て居ることがあつて、其梅毒の健康者の口唇や口  
 中の上皮の剥れて居る部分から入るのだ(三)授乳も亦傳染の種  
 となり、即ち梅毒性の小兒の口中に在る梅毒が乳房の疵  
 から入り、爲めに乳を授けて居る婦人に傳へるのだ、乳を授け  
 て居る婦人の乳房に梅毒の潰瘍があり、それが口唇の疵に入  
 り、遂に小兒に傳へるのだ(四)醫士、産婆、看護  
 婦は自然梅毒患者に接する所から其梅毒が手の小さな疵か  
 ら入つて傳染することもある(五)梅毒患者の分泌物が附いて  
 る器具衣類などを用ひて傳染することもある(六)梅毒性の小  
 兒から種痘の種を取り、之を健康なる小兒に植へたる爲に傳  
 染することもあるし、又種痘の針の尖を十分に消毒せずに他  
 の健康なる小兒に種痘をすることから傳染することもあり  
 ます(七)婦人が妊娠する以前に梅毒に罹つて居るか、又は妊  
 娠後始めて梅毒に罹り、其梅毒が胎盤(俗にあと産)より臍  
 帯を傳つて胎兒の體內に侵入し爲に其胎兒が梅毒に罹る例も  
 あるし、又父親の梅毒を遺傳することもあります、序に申し  
 て置きますが、母は健全でも、父の精蟲中に梅毒が有つて兒  
 に遺傳するもあれば、又反對に父が健全で母の卵巣より出た  
 卵に梅毒を含んで居り、爲に其兒に遺傳するものもある、又父  
 の精蟲にも母の卵子にも梅毒が有つて其の子に梅毒を遺すの  
 は激烈であります。

以上述べました原因に依りまして先天性梅毒と後天性梅毒の

二種に區別します、即ち先天性梅毒は遺傳梅毒のこと、生  
 る前に父或は母或は父母より其毒を受けるものです、後天  
 性梅毒は生れてから交接其の他の誘因から傳染するものを云  
 ふのである。

梅毒は潜伏期、第一期、第二期、第三期の四期に分ちます、  
 潜伏期は通常二週間乃至三週間であり、第一期は二三週  
 の後硬性下疳を生ずる時である、第二期は梅毒疹が皮膚や粘  
 膜に發する時でありまして、二三年間も續きます、第三期は  
 第二期後數十年間を云ふのであります。

梅毒が人體内に入つても其當時は少しも其症狀が無くて、平  
 均二十四五日も経つと初めて其の入つた部分に其の徴候が表  
 れて來ます、而して其表れ方に三通りある

(一)龜頭や其他に乾いた疹が出る、疹は初め粟粒程で、其だ僅  
 かに皮膚よりも隆くなつてゐるに過ぎぬが日を経るに従ひ、  
 次第に大きくなり、直径は三分にも及ぶ、之を丘疹と申しま  
 す、併し後には消ゆるけれど、其近傍のリンパ腺は腫れて硬く  
 なるものです

(二)初めは丘疹又は紅い斑點が出て其が段々大きくなり皮が  
 剥け、少しく爛れ、其後薄い痂皮が出来る、されど五六週間  
 も経てば多少色が附いて治ります

(三)最も多く表はれる徴候は陰部に硬結を生じ其の大きさは小  
 豆位乃至一錢銅貨位で、其の形は殆ど圓く、而して硬くて少  
 しく腫れ、且つ紅くなり、遂に硬結部の中央の表皮が剥け、  
 其の剥けた部より少し宛液が出て、其の液が乾くと薄い痂皮  
 になり、其の部分の不潔にしたり、或は治療が悪いと潰瘍に

なつて深い部分までも入り込むやうになる、之を硬性下疳  
 と申します、乃で小さな硬結は三四週間で治るけれども大きく  
 なつて而も潰瘍になれば數ヶ月も費し、それで治つた後でも  
 久しく其部分が硬い

以上三通りは前述の如く容易に治るけれど續いて全身症の起  
 るものでありますから順序を追つて詳しく述べます

リンパ管やリンパ腺の梅毒は前述の硬結が出来てから一二週間も  
 経つと鼠蹊腺に梅毒が傳はり、其部の腺が幾つも腫れて指頭  
 又は指頭以上の大きになります、されど腫んだり痛んだりせ  
 んもの、次に内部にあるリンパ腺も侵されるけれど、外部  
 から觸れることが出来ぬから素人には判らぬ、斯くて梅毒が  
 血液の中に入り、全身を循るやうになれば到る所の腺が腫れ  
 て硬くなり頸、頸部、後頭、肘、腋窩などの腺が最も侵され  
 易い、斯様に腫れたリンパ腺は數月乃至數年も續きますけれど  
 後には次第に小さくつて遂に消え失せる、殊に適當なる治療  
 を施したならば尙早く治るものです

發疹期といふのは硬結やリンパ腺の腫れることがあつてから後  
 に其毒が全身に蔓り、即ち皮膚に疹の出るをいふのだ、乃で  
 其の發疹の状態は其の初めは體温が五分乃至一度五分も昇り  
 其熱は日晡に高くて朝は低い、而して脈の數が多くなり、頭  
 や腰其他筋骨及關節などが痛み、食が進まないで身體が倦  
 い、然も三四日續いて居る揚句に皮膚に疹が現はれ間もなく  
 熱は下るもの、但し強壯なる人になると發疹の外に何等の  
 症狀を呈せぬことがある

▲皮膚の梅毒といふのは梅毒が全身に蔓つて後皮膚に及ぶと

皮膚にも色々の疹が出来、數年の間出たり失せたりします、  
 今其疹を區別しますれば、丘疹性梅毒疹、丘疹性梅毒疹、膿  
 疱性梅毒疹、結節性梅毒疹、潰瘍性梅毒疹等であり、まするち  
 よど其概略を御話いたします

▲梅毒性梅毒疹は發疹期の初めに現はれるもので、梅毒患者  
 百人中九十人迄は此疹が出て其大きさは小豆位乃至指頭位で、  
 其の形は殆ど圓く、色は初めは淡赤で殆ど赤褐色であるけれ  
 ど、一二日も経つと次第に濃くなつて後には黒ずんだ褐色に  
 なる、而して最も出来易い部は背部と胸部との兩側や關節の  
 屈曲面、手掌及足趾などである、之は適當な治療を施せば數  
 ケ月で消へます、削れば少しも痕が残らぬ、併し中には其部  
 の色素が著しく少なくなつて白斑の残ることもある然る時は  
 之を梅毒性白斑と稱へます、此白斑は數月乃至一二年の後で  
 なければ消へませぬ

▲丘疹性梅毒疹は圓くて皮膚の表面から僅かに隆く上り、  
 色は褐色で大きなのは小豆乃至大豆以上もあり、之れ  
 に觸れると硬く、全身に發することもあるれば又一局部だけ出  
 來ることもある、之れは亦適當の治療を施しましたならば數  
 週間で次第に小さくつて鱗屑が剥げ消へますけれど、中には  
 却て周圍に蔓るものもあつて、此の疹だけ出ることもあれば又  
 蓄積疹と共に出ることもあり、又此の丘疹性梅毒疹か  
 皮膚と皮膚と磨擦し分泌物が多くて常に刺戟を受ける部分に  
 出来、其表面の表皮が剥れて濕ひ、尙刺戟が止まぬときは次  
 第々々に其面が廣くなり、大豆乃至一錢銅貨程の大きさにな  
 ります、これを扁平濕状といひます、婦人の陰部や肛門の周



圓は男子よりも濕つて居るから婦人の梅毒患者は大抵此の扁  
平濕疣に罹るものです、此の濕疣は灰白色又は褐色で皮膚よ  
り頗る隆く其面からは薄い汁又は膿を出し、悪臭を放つもの  
だ、若し之を治癒せずにおくと潰瘍になる、此疹は男子の陰  
囊や陰嚢に近い大腿の内面及肛門の周圍にも出る、肛門の  
は痔疾と間違ふもので俗には之を痔瘡と云つて居る、而して  
少しの摩擦を受けても甚だ痛み、之から洩れる液には梅毒を  
含んで居るから、身めに最も能く他人に梅毒を傳染せしめる  
ものだ。

▲膿疱性梅毒疹 は疹の中に膿を有る其の部の皮膚は固もな  
く破れ、膿が乾いて痂皮を被り、痂皮が剥がれると爛れたり  
潰瘍になつたりする、其大きな膿疱は豌豆乃至それ以上の大  
さの褐色の硬い結節があつて、其の中央に膿疱が出来、後に  
は又其の部に膿の痂皮が出来て其の周圍に炎症を起すもので  
ある、斯うなると熱發し、身體が衰弱し、重いものになると全  
身に膿疱が出て一命にさへ關することがある。

▲結節性梅毒疹 は梅毒を成染してから一二年の後に發する  
もので、取りも直さず第二期梅毒の症状の一つである、併し  
重症の梅毒になると傳染後六ヶ月位に出ることがあつて、之  
を皮膚の浸潤腫と皮下浸潤腫の二つに區別します。

皮膚の浸潤腫は豌豆位の大きさの頑硬い疹で其形は球状をなし  
其の初めは赤、後には褐色に變じ、時々容易に治らぬが、治  
れば跡に褐色の瘰癧が残る併し此の浸潤腫は、一つ治れば又  
新しく出来、長い月日を費すものだ。

皮下浸潤腫は其の初めは皮膚の下に出来、次第に周圍や深部

に廣がり胡麻乃至蠟卵程の大きさである、其の色は初め赤く後  
には褐色に變る、而して初めは硬いけれど段々軟かになり、  
同時に皮膚は大抵に薄くなつて遂に其中央部が破れ、粘り液  
を洩らし遂に潰瘍になる、併し此の浸潤腫を治癒せずには放棄つ  
ておく甚だしく其周圍を荒して膿瘻が外に開つたり、口唇  
が除けたり鼻が落ちたりするものである。

▲潰瘍性梅毒疹 は多く浸潤腫が破れて出来るのだ、其潰瘍  
の縁は規つた様に鋭い其面は穢い灰を帯びた黄色の分泌物で  
被はれ、或は乾いて痂皮になり、性の悪いものになると數月乃  
至數年に及び、皮膚の廣い部分を傷めるものだ、斯くの如く  
周圍に廣がるに從ひ段々痂皮が癒へて恰かも牡蠣殻のやうな  
状を呈します、之を梅毒性牡蠣殻といひます。

▲毛髪瓜甲梅毒疹 は髪毛が脱けて禿頭になり、稀には眉毛  
毛或は鬚髪までも脱けることがある、次に乾性瓜甲瘡とい  
つの瓜甲から又は二つの瓜甲が厚くなつて指から剥がれ其間  
に空氣が入り瓜の色が白くなり或は全く脱けて下よ、併し治  
癒が行届けば一旦脱けても再び生へるものだ、又潰瘍性瓜甲  
瘡といふのは第二期の末又は第三期に起るもので、前述の瘡  
瘡に作り、多くは足の瓜甲を侵し其侵されるのは大抵一つ  
である、乃ち初めは瓜甲に炎症が起り、皮下に膿が溜り、之  
が破れると潰瘍に變じ、遂に瓜甲が落ち治癒の結果再び生  
ても元の如く完全にはならぬ。

▲骨梅毒 は二種ある一は骨の周圍の膜を侵すもの、一は骨  
又は骨髓を侵すものである、乃て其骨膜を侵す所謂梅毒性骨  
膜炎は大抵頭蓋骨、肋骨、鎖骨、胸骨、胸骨、前脚骨などの

皮膚に近い骨の一ヶ所又は數ヶ所に起り、急性は劇痛を發し  
其の部の皮膚が赤く熱が出るが、慢性は左程に痛みもせず、  
また皮膚にも變化を及ぼさぬものだが、併し腫せば矢張り痛  
み、腫れて居る骨膜中には軟かな物が溜るけれど、瘡治が宜  
いと、其物が吸収せられ、骨にも骨膜にも變化無く治り、一  
先安心すべしだが、瘡治をせずにおくと數月間も痛み、骨が  
肥厚したり、或は化膿したり、甚だしきは腐骨瘻を起すこと  
がある、又梅毒性の骨質炎は骨膜又は骨髄の炎症に續いて  
起るものであるが、若し骨質だけの場合は鈍痛を發し、夜  
間は向一層痛むもので、之を瘡治もせずには放棄つて置く  
部分の骨が脆くなり遂に折れることがある次に骨髄に浸潤腫  
が出来るともある、乃て適當なる治療を加へ、治れば何で  
もないが、中には骨質を破壊し或は浸潤腫が崩れて皮膚に向  
ひ破れることがある。

▲關節梅毒疹 は關節に疹を發し、又同時に腫れることもあ  
る、其發するは大抵一關節で最も多く膝と肘を侵すものだ、  
之に侵されると關節に慢性の炎症が起り多くの滲出液が關節  
の腔洞に溜ることがある、之を放棄つておくと運動不自由を  
感じ、甚だしきは關節が動かぬやうになつたりする。

▲内臓梅毒疹 は諸内臓が梅毒に侵されるのであるが、今消化  
器梅毒から云ふと往々口唇や口中に硬結が出来たり尙進めば  
疹が出来、此疹にも三通りあつて、紅斑性といふのは赤色  
の斑で僅かに小豆程の大きさのものもあるし又頗る廣い部分を  
占めるものもある、而して大なるものは軟口蓋から咽喉まで蔓  
り、舌が出て咽喉が渴き、粘液が澤山に出て、遂に粘膜の上

皮が割れ且潰れ、爲に食物を嚥み下すことが困難になるが、  
併し數週間も経てば上皮が新生するものなれど、治療を怠  
ると腫れ起るものだ、次に丘疹性云ふのは圓くて赤い色を  
なし、其大きさは小豆程のもので間もなく白色になり、上皮  
が割れると更に下の赤い肉が露はれるものだ、而して口唇  
舌、頬の内面を主に侵され治療遅れが行き届かぬと潰瘍性  
變するものだ潰瘍性とは丘疹性の梅毒疹が重くなるので、粘  
膜に破裂が出来其底には汚い膿がつき食物を嚥つたり話をし  
たりすると痛が起るものだ若し斯る疹が口唇に澤山出来て、  
それが互に連ると、舌及び口中の粘膜が大に腫れて劇痛を起  
し、十分に口を開けることが出来ぬ所から常に涎を流すもの  
だ、それから第三期にも口中や咽喉の粘膜が侵され、此の部  
の内面には比較的浸潤腫の出来ることは少ないが若し出来  
ると口唇が崩れ頬に深い潰瘍が出来て食物を嚥み砕くことが  
仕難くなる、又舌が浸潤腫に覆はれると後には其部が軟かに  
なつて崩れ、粘り液を洩し、指匂に潰瘍になる、其他軟口蓋  
懸壅垂、咽喉壁等にも浸潤腫が出来、瘡治が行き届かぬと此  
等の部分が缺けたり孔が開いたり、色々の畸形が出来たりし  
て呼吸及び飲食が妨げられ、甚だしきは黃泉の客となること  
がある、次に腸梅毒は最も直腸を侵し直腸に潰瘍が出来、其  
の治つた後に瘻瘻を生じ、爲に直腸が狭くなつたり、或は潰  
瘍の爲に女子であると腔の方に孔が出来たりする、次に肝  
臓梅毒は肝臓に浸潤腫が出来、之が爲に肝臓は大きくなつて  
痛み、後に肝臓が萎縮すると腹内の血液循環が妨げられ、腹  
水や脾腫を起して危険なる場合に陥るものだ。



▲呼吸器梅毒は第一に鼻を侵され易い、乃ち鼻の粘膜に第二期の紅班が出来る。鼻の中が痒くて熱い感を生じ、粘膜は赤くなり、疹が鼻の方まで擴がる。多くの稀薄な鼻汁を流し、嗅覚が鈍くなる。それから又丘疹が鼻孔内に出ると、鼻汁が多く出て段々と粘膜が腫れて空気の通じが悪くなり、後に潰瘍となる。鼻汁が膿の様に變ずるもの、偕又第三期になると鼻中に膿腫腫が出来、數月乃至數年も侵されると鼻が破壊せらるゝやうになる、それで其起り方甚だ緩かであるから始めは氣附かずになるが、粘膜が腫れて空気の通じが悪くなるに従ひ漸く氣が付き間もなく鼻汁を増し、後に膿が出て、續いて骨が壞疽り鼻をかむ折、骨の出て來ることがある、斯くて尙病勢が進めば鼻梁が落ち甚しきは、鼻の形が全く除れ、鼻の孔だけが残り、フギヤ／＼と云ふやうになつて哀れな姿になります。次に喉頭梅毒として喉頭に紅班を生じ、咳嗽や痰が出て、聲が啞れる位だが膿腫を生ずると後に潰れて、潰瘍に變じ、軟骨が破壊せられて癩癩を生じ、爲に喉頭は狭くなり聲が啞れたり、全く聲が出なくなつたりする、それから又稀には聲門が腫れ塞がる所から窒息する様な危険もある、斯くて尙も進めば氣管や氣管支はをろか、肝臓をも侵すことがあり、泌尿器及生殖器梅毒の第二期には往々急性の腎臟炎を起し、第三期には慢性の腎臟炎又は膿腫を生ずることがある、急性の腎臟炎を發すれば尿量が減り浮腫を發し、頭痛、嘔吐、下痢などの諸症を伴ひ、甚だ困苦するものだ。次に慢性は膿腫を發することは稀であるけれど、長久しく治らぬ、次に寒丸梅毒は寒丸が腫れて大きくなり、後に萎縮して甚だ小さくなるものと又化膿の爲に破れて膿を洩すのである、而して若も両方の寒丸が侵されると、全く生殖力を失つて了ふやうになる、其他の生殖器梅毒の事は始めに述べましたから省略いたして、序に婦人の乳房梅毒のことを一言述べます、乳房には往々濕疣や乳腺の炎症を發したり、或は膿腫腫が出来て皮膚に破れることがある。

▲血行器梅毒も甚だ恐いものだ、心臓は多く第二期に侵され、心室や心臓内膜などに炎症が起り、殊に心臓の筋肉に膿腫の出来ることがある、斯うなると脈搏は其の數を増し、呼吸困難を感じ皮膚は青色になり、浮腫を發し、哀れ一朝の露と消ゆることがある次に動脈にも炎症を起したり、膿腫腫を生じたりするもので、其の動脈の貴重なる部であると危険を伴ふことが少く無い。

▲眼梅毒は最も眼瞼や結膜に丘疹や、膿腫腫を生じ、又は虹彩炎を發し、眼瞼及結膜が腫れ、角膜の周圍に充血を起し、虹彩は大に色が變り、瞳孔は縮り眼を開け難く而して痛み、且つ羞明く、次第に視力は衰へ、甚だしきは失明することもある、又脈絡膜炎を發することもある、之に罹ると視力が大に妨げられ、物を見るとき暗い點が出来たり物に色が附いて見へたり、或は夜盲症になつたりする、次に網膜炎は之も視力が妨げられ、恰かも脈絡膜炎の如き症状を發し容易に治らぬものである、次に視神経が侵されると、初めは視力が減じた位に思つて居れば、段々に見えなくなつて來て全く失明するに至るものだ。

▲耳梅毒は外聽道に發し易く、茲に發すれば初めに乾いた丘

疹が出来、それが次第に爛れて濕疣になるものだ、而して重いのになると全く耳の孔が塞がり、聴覚が甚だ悪くなり膿の混つた液が多く出るやうになる、又鼓膜にも充血が起り、孔が開くやうになると、耳の奥から膿が出る、又オイスタキー氏管が侵かされる、これと亦聴覚が悪くなり、耳がガン／＼鳴るものであるから、それから又ズット奥の迷路が侵されるやうになれば劇しく耳鳴を感ずるのみならず、眩暈や嘔吐を發し、揚句に聾になることがある。

もので、初めは下肢に疼痛を感じ、骨が絞められるやうに感じ、それから皮膚の知覺が異常を來し、膝の膝反射が消へる此の症候は數年乃至數十年も續いた後歩行が困難となり其歩む時は腰を高く揚げも難の歩くやうな姿となるものもある以上内臟梅毒の一斑を述べましたが、次に奔馬梅毒の御話をいたします、奔馬梅毒は、梅毒中の最も悪性なもので、恰も暴れ馬が奔るやうにズン／＼と病勢が進み、且つ重い所から斯く言ふので、傳染後數ヶ月の中に潰瘍や膿腫腫が方々の臓器に續々起つて來る實に恐ろしい症候である、乃ち初期より硬結が組織を來すことが強く、直ちに壞疽の如き有様になり易く、而して發疹すること、普通の梅毒よりも其の症状が劇しくて熱が高く、關節や骨が腫れて痛み、而して全身殊に顔や頭に膿を有つた疹が多く出来、其疹が潰れて潰瘍に變じ、斯くて此の疹の十分に治らぬ中に、更に次の疹が出来、消化器呼吸器、腦、肝臟、腎臟及心臓などにも早く病毒を運ぶし、間もなく絶命せんとするものである、之れにて後天性梅毒の大要を述べ終りました、次は先天性梅毒に移ります。

▲先天性梅毒は前にも述べた通り、母の胎内に在る頃に罹つた梅毒の事で斯る子は既に子宮内で梅毒性の疹が出来るものもあるし、又生れた後に始めて梅毒症の出て來るものもある、何れにしても始めから後天性梅毒の第二期第三期に起るやうな病状と殆ど同じ微候を現はすものである、が併し其の二期三期と違ふ點の大路を述べれば、皮膚に膿を有つ疹や潰瘍の出來ることは殆ど無く、唯、大きな水疱や出血性の疹が出來皮膚の磨擦する部では上皮が剥がれ、爛れて居ることがある。

▲神経系梅毒は實に恐ろしいものだ、第一梅毒性の腦膜炎に罹ると頭痛を發し、次で眩暈や不眠症を來たし、又嘔吐を催すし、思考力も記憶力も減弱するものである、動眼神経が梅毒に罹ると、眼瞼が垂れたり、斜視を起したり或は瞳孔が開いたりする、其の他視神経聴神経などが侵されると、各夫々の機能を失ふやうになる、次に腦髓が侵されると、炎症の如き症状があり、種々の器管に膿腫腫が起り、甚だしきは昏睡状態の結果彼の世の人となることがあるそれから又麻痺狂に罹れば初めは頭痛、眩暈に引き續き不眠を來し、食慾が進まぬやうになり、次で患者の氣質がからりと變り、品行などは意に介せず、それで喜怒哀樂の情は盛んになつて判斷力を失ひ、口唇や手が顫へ、次第に精神が高慢になつたり、或は反對に沈鬱したりして病の進むと共に遂に死出の旅に上るものである、次に脊髄も亦侵されることがある、乃ち之に罹ると、神経痛を發したり、反射機能が進んだり、或は反對に脱失したりして遂に膀胱や肛門の筋が麻痺するもの、偕又梅毒の爲めに脊髄勞が起ると、數年乃至數十年も苦しめられる。



### 梅毒豫防法

斯くの如く梅毒は恐るべき病ですから不品行を慎まねばらぬ身の行を慎まないと梅毒を豫防することは出来ませぬ、次に結婚する際双方に梅毒病者か無きかを探偵すること最も大切である、然るに己れ梅毒あるにも拘らず、之を秘して妻を娶り、間もなく妻にも傳染らせ、己れの手を盡して療治し、妻のは放擲つておき、妻の病が甚だしくなり、醜形を呈するやうになつてから離婚をするに至つては其の殘酷な事は虎狼も三舎を避けるであらう、次に乳母を雇ひ入れる際、之も双方で注意せねばならぬ、即ち乳母が梅毒に罹つて居りはせぬかと云ふことを調べるのと、又乳母の方でも乳兒が先天的梅毒で無きかを確かめねばならぬ、云ひ換へれば互に德義を重んじ、若し乳母にして梅毒あらば何れへも雇はれぬやうにし、乳兒に梅毒あらば其母が育てるか或は乳が出ぬ場合には牛乳で育てるやうにしたい、次に煙管の貸借や酒盃の献酬を廢することは皆に梅毒の豫防ばかりでなく、衛生上最も必要であります、要するに梅毒の豫防は各自の衛生に待たねばなりません。

### 攝生法

若し不幸にして本病に罹つたら、第一に攝生を守らねばならぬ、少しでも疑のある場所は速に専門大家の診断を受けるか又は適當の薬を服用せねばならぬ、然るに己れの不品行を耻

而して紅斑の出来るのは分娩後二週間迄の中で、若し六週後に出来たら、先天性では無くて生れたる後に感染したと謂つても可い位だ、初生兒に出来る丘疹は大きくて、其皮膚の磨擦する部では濕疣に變じ、顔や頭に生ずるのは膿を持つところがある、此疹は生れた折既に出て居るものもあるし、又産れた後に次第に生ずるものもある、水泡は先天性梅毒に現はれる所の重い徴候で其初めは手掌、足趾に丘疹又は紅斑が出来、既に大きな水泡になるのだ、其水泡の中に水の如き液が溜つて居て、時に膿の混つて居ることもあり、之が破れると濕うた赤い面が出来、それが次第に四肢、軀幹及顔に蔓り、遂に粘膜にまで及び、大抵は一二週間のうちに死ぬものである、斯様に先天性梅毒に侵されて居る小兒は必ず鼻加答兒を伴ひ鼻の粘膜が赤く、初めは水の如き鼻汁を洩らし、次で膿の如くに變じ、中には血液を混じて居ることもある此の分泌物が乾くと鼻の孔が塞つて呼吸に障害を起し乳を吸ふことが困難なる所から營養不良を來し遂に死亡するのである、次に喉頭にも疹が出来、咳嗽が出て泣き聲が噎れ肺も亦犯され到底生長する見込は無いものだ、次に口中や咽頭を始めとして小腸肝臟或は四肢の骨が侵され、齒の發育は悪く心臓にも謾謾腫が出来血管が脆くなり、或は皮膚の下に溢血したり、或は眼病を起し、甚だしきは失明し、或は耳の迷路が侵され、甚だしきは聾になることは未だしもだが、最も重い先天性梅毒は、子宮内で彼の世の人となつて流産するのがあるされば梅毒は先天後天に關せず恐るべき病でありますから、其の豫防法を講せねばなりません。

ちて、躊躇時を移すものだから病勢を益々重らせるのみである、次に飲食物に注意し、可成消化し易くて營養に富んだる物を食せねばならぬ、身體の強者は病毒に抵抗する力が強いから従つて早く治り易い譯である、酒は絶對的廢せねばならぬ、口中や喉頭などに梅毒疹の出来る場合に酒を飲むと其の疹の經過を悪くするものである、又煙草も鼻や口中及び咽喉などの侵されて居る時は甚だ害がある、次に身體を清潔にすることは大必要である、殊に分泌物は常に注意して拭き取りぬと梅毒が蔓り易いのみならず他人にも傳染り易い恐れがある、又口中は含嗽薬で含嗽し能く清潔にするが可い、次に感冒に罹らぬやうに注意せねばならぬ、又激しい運動は宜しくない、殊に皮膚に疹の出来る場合には摩擦を防ぐ爲に静臥して居るのが最も得策である、次に交接は常に相手に傳染せしめる危険があるのみで無く、己れも摩擦の爲に病勢を重くし、且又軟下疳や麻病を二重に傳染せぬとも限らぬものである交接しても差支ない時期は傳染後三ヶ年を経ねばならぬと云ふことである

### 治療法

彼の獨逸のエルリッヒ博士と我國の泰博士との發見にかゝるサルワルサン(六〇六號)は一回の注射では梅毒が全治しないことは専門大家の實驗報告によりて隠れなき事實である、初期には多少効能があつても第二期、第三期梅毒には水銀劑と併用しなければ効能がない事も世界の専門大家の報告によりて明かである、發見當時は實に好評でありまして世の梅毒

患者は一舉にして絶滅し得るごまで多大の望を囑せられて居たにも拘らず、實驗の結果、種々の餘病を惹起し、二期三期に効能が薄いのみならず初期でも一回の注射では治癒しないことが證據だてられまして頓みに聲價をおさしました、次に水銀劑は直接殺菌の効力はありませんけれども、何分身體に障害を來たしますので危険です、世間で梅毒薬を服んだり摩擦したりすれば齒がぬけると申しますが水銀療法を行つて貰ふには齒の掃除を充分にしてもどうしても齒の根が浮いて來ます、その他種々の障害を來たします我輩の經營に係るドラッグ商會から發賣して居ります梅毒薬は、内服薬として第一有効なりと確認せられ、帝國大學病院に賞用せられて居ります薬味を主薬といたし他の驅毒に卓効ある薬味二種を配劑して居るのであります、梅毒薬としてはこれ以上の良薬はありません、且此内服薬は絶體的餘病を惹起する憂がありません併し此薬は直接殺菌の力はありませんけれども血液の循環をよくして梅毒菌が體内に生息することが出来なくなりまして體外に排出する作用を持つて居ります、故に連服しますれば梅毒を根治するのみならず、身體が肥満いたし無病壯健な體になります、但し此にも角を矯めて牛を殺すと申して居ります、梅毒を治療する爲めに六〇六號を注射したり、水銀劑を塗擦したりいたしますのは、實際險難至極である、それよりも少々日時は長引いても、身體を安全に梅毒を根本的に治療し得る、ドラッグ商會の梅毒薬を服用する方が得策であります、斯く申せば我田引水と思召す諸君もあるであらうが我輩は從來幾多の經驗上の確にしかく信じて居りますから公



言して憚らないのである。論よりは證據で、ドラッグ商會は全國到る處の都市は勿論、臺灣、朝鮮、滿洲、南洋等に九十ヶ所の支店と百二十餘ヶ所の分店とを有し、花柳病専門藥房として日に月に盛大になつてゆきつゝある、若しもドラッグ商會の製劑が梅毒に効能が顯著でなかつたならば決して今日の盛況を呈することは出来ないことは今更事々しく申すまでもないことで、製劑が梅毒に卓効があり、數十萬の梅毒患者がドラッグ商會の製劑を服用して全治したのだから、梅毒に感染したならばドラッグ商會の製劑を服用すれば全治するに云ふ評判が、全治患者から傳へられて居るのは何よりの證據であります。

徳云ふ具合にドラッグ商會が發展し、商會の製劑の評判が非常に宜しいものだから、東京京都を始め各地到る處に僑ドラッグ商會を起すものが、續々出来ましたけれども發展しませぬ、彼等は製劑の素養もなく一獲千金の慾張主義で人眞似を敢てしドラッグの名の下にぬれ手で粟のつかみどりや夢みて徳義に背いた行動を敢てするのですから發展する筈がありません、故に我輩は百の僑ドラッグが起りましてもピクともしないのである。

元來ドラッグ商會は金儲けばかりを目的として居ないから、世

間にありふれたイカサマ賣薬とは全然趣を異にして居ります。故に薬を精撰吟味して製劑に多大の注意を拂ひます。勿論、病氣の發端、其後の治療方法、目下の容態等を聞かねば一貼の薬も賣りませぬ、又養生法を嚴守しない人にも薬は賣らないと云ふ一種風變りの専門藥房です。世間一般の藥房とは全然方針を異にして居ります、言を換へて云へばドラッグ商會は薬を賣るばかりが目的でなく、病を根本的に治癒せしむるのが唯一の目的でありますから、營利の外に立つて居るのです、早い話が薬を賣つて金を儲けるのが目的であるならば決して花柳病の預防薬を發賣しませぬ、何せならばドラッグ商會は花柳病の専門藥房ですから、世の中に花柳病者が澤山に出来、製劑が澤山賣れればドラッグ商會は發展するのですから花柳病の預防薬を發賣するは柄にないことである、それにも拘はらず預防薬を發賣して居るのですから此一事でもドラッグ商會は金儲けが目的でなく恐るべき花柳病を撲滅させて六千萬の同胞の健康を保つ所謂富國強兵の大目的を貫徹すべく努力して居ることを證據立てることが出来ること信じて居ります、以上申述る様な次第でありますから、世間にありふれたイカサマ賣薬と同一視せられては困ります。

## ワツセルマン氏の反應試驗

ワツセルマン、ナイセル、ブルツク三氏の梅毒血清診斷法の

一度世に現はれましてから、天下の耳目は茲に集まり、其變

法が種々様々に講せられて居りますけれども、各一長あれば一短が伴ひまして不正の結果を招くのがあります、故に今日ではワツセルマン氏が一般に行はれて居ります。併しながら其方法が頗る繁雜なので動もすれば不正の結果を齎らすの恐れがあります、故に數多の熟練を要するもので、到底町村醫では實行する事は六ツかしいと思ひます。

梅毒の血清試驗を行ひますには、次の如く補體の轉向作用を撰選せねばならぬ、即ち之が實驗を爲すには五個の物質を要します。

- (一) 羊の血球
- (二) 補體として、モルモットの血清
- (三) 梅毒性臓器のエキストラクト(免疫元)
- (四) 梅毒患者の血清
- (五) 兎の血清

由羊の血球を度々兎の静脈内に注入して其血管内に多數の血球溶解を發生したるものを使用す、而して此血清を前述の如く一定の温度にて非毒性となし、たる時は所謂血球溶解性變體と稱するものを得べし。

本試驗を行ふには患者一人に對し少なくとも二本の試験管を要す、即ち其一本は之を真正の試験に用ひ、他の一本は之を對照に供するのである。

今其試験を始めんとすれば、先づ該試験管に各々非毒性患者血清〇、二宛を入れ、之に〇、八の生理的食鹽水を加へて各一、〇となし、亞で其一方の試験管に〇、二の鹽酸越幾斯〇、八の生理的食鹽水を加へ、對照試験管には一、〇の生理的食鹽水のみを入れ、免疫元たる臟器越幾斯を加へず、次で又之に〇、一の補體〇、九の生理的食鹽水を加ふるか、或は豫め補體一、食鹽水一〇の割合に混合したるもの一、〇を加へ、よく振盪し總檢を施したる後一時間之を攝氏三十七度の孵卵器内に入れ、其後所要の血球溶解液を合する生理的食鹽水各々一、〇を入れ、更に之に五〇の羊血球一、〇を加へ全量五、〇となしよく振盪し、總檢を施したる後更に二時間前記の孵卵器に入れ(初め一時間は約十分毎に之を取り出してよく振盪混合すべし)時至りて後之を取り出し其陰陽を詳にせねばならぬ。

其際阻止現象の起りたるもの即ち血球が溶解せずして試験管の底部に沈澱し、其上層は殆ど無色透明の液體となるものは陽性である、若し羊の血球が全く溶解して全試験管は透明にして一種なる鮮紅色を呈する時は陰性である、換言すれば羊の血球が溶解せねば梅毒患者であるし、溶解すれば梅毒患者でないのである。

(注意)患者の血清を入れざる一個の試験管は對照的實見を行ふもので、完全なる血球溶解作用起れば始めて此實驗の正確なるを証するのである。

血清試驗を行ふに要する材料を採取するの法を説明するは複雑なる紙面の許さざる所であるから、それは他日に譲るが、



此反應試驗は梅毒の診断上最も必要であるにも拘はらず、材料を採取するの困難なること、技術の複雑なること、多額の費用を要する為め、町村醫等は之を行ひ難き事は各専門大家の明言する處である。

ワフセルマン氏の反應試驗は普通の開業醫や田舎の醫者等は到底行ふことが出来ない、さうかして今少し簡便なる代用品が発見せられて此法の實地醫家に行はれんことを望むは獨り我輩のみではあるまい。

要するに梅毒の潜伏期や表面に現れない梅毒患者に對して普通の町醫者又は田舎の醫者共は的確に診断することは到底出来ないので梅毒が陰性であるか陽性であるか診断が出来ないので六〇六を注射するは危険至極である。

### 痲病 談

ドラッグ商會主 有田音松講演

ぢすの譬の如く盲目滅法界に注射して居るのである、彼等の心中には豫後の如何はドーでも宜しい只一時流行を追ふて一回の注射料二十圓を食ればよいので、あとは野となれ山となれで効能があらうがなからうが、膿うが痛まうが餘病を惹起さうが我關せず焉と空嘯ひて居る、如何に金儲に急なればと餘りに慘いではないか。

ワフセルマン氏の反應試驗を行ふ能はざる醫者に六〇六の注射を請ふのは危険千萬であるから、それよりも安全に自宅療養で如何なる難症の梅毒も根治し得る良藥即ちドラッグ商會の梅毒請合藥を服用するが安全で且得策である。

故に梅毒患者は山師的醫者の欺法藥廣告杯を信じ金儲けの具に供せられないやうに注意が肝要である、で世の梅毒患者は遂にドラッグ商會に來りて相談せらるゝがよろしい。

痲病と云ふものは矢張り一種特異の微菌に依るものである、それは所謂痲菌ゴノコフケンと云ふものであつて、千八百七十九年に獨逸のナイセル氏の發見に係るものである、初め痲病の體の中から一種の微菌を顯微鏡的に發見し、それからそれを研究して見た所が、それは痲病の場合には必ずある所の

微菌である、痲病以外の場合には決して其微菌が無い、さうしてまた痲病から惹いて起る所の種々の病氣、痲病と一口に言ふと唯尿道に來る所の膿の出る病氣を言ふのであるが、併し痲病は決して尿道ばかりに限らずに、人間の身體の方々に蔓延して害毒を逞しうするものである、さう云ふ痲病から惹

いて起る諸種の病氣には悉く痲病の微菌即ち痲菌と云ふものがあります、痲菌は圓いものを二つに割つたやうな形をして居るのである、さういふ小さな微菌が痲病の體の中に澤山繁殖してさうして、不潔なる交接に依つて傳染するものである。其外痲菌微菌が交接以外に傳染する場合は、例へば一家に於て一人が痲病を持つて居ると、局部から痲菌を含んで居る膿が洩れるから、それが他の人の手とか、手拭とか、着物とか、風呂とか直接間接の媒介に依て傳染する事もある。殊に能く有り勝ちなのは、此痲菌が眼に這入ると眼の痲病を起し失明します。痲病の間接の傳染は多く手拭或は入浴の場合に多い。且つ注意すべきは、家族間に於て最も傳染し易きは、男の子に對してよりは處女に對する傳染の多きことである。これは交接以外の傳染であつて比較的少數である、大多數の場合即ち百中九十九の場合には殆ど皆不潔なる交接に依つて傳染するものである、さうして其痲菌なるものは先づ局部に於て、即ち男子或は女子の生殖器に於て、殊に男子に於ては尿道、女子に於ては尿道、腔或は子宮と云ふやうな所に先づ起つて、其處から膿を出し、或は其處に色々の障害を起し、其困難を來すのである。

痲病は唯其傳染された局部に於て止まるばかりでなく、局部から段々上に／＼と傳はりて、周囲の臟器に蔓延して行くのみならず、又血管即ち循環器の中に這入つて身體全體に廻はり、所謂痲病の全身傳染となり得ます。且又生殖器が男子と女子と違つて居るから、男子の生殖器の痲病と女子の生殖器の痲病とは大に趣を異にし、害毒の程度を異にするのである。

全身に傳染した場合即ち血液中に痲菌が這入り、全身に之が廻り、種々の臟器に害を爲すのは男子女子共同様である。

### 急性痲病

先づ男子に於ては、尿道に於ける痲病を通常痲病と云ふ。男子の痲病は普通は極めて軽く、極めて興し易い病氣のやうに思はれて居るやうである。是は未だ能く痲病の害毒が一般に理解されて居ないからである。男子の尿道に於ける痲病は、不潔なる交接あつてから二日乃至三日（或は長い時は四日も一週間も経つてからのこともある）を経つてから、初めに尿道に少しの痒味を覺へ、或は少しく焼けるが如き感じを覺へる。其時分尿道の外口に氣を付けて見ると少しく赤くなつて居るか、或は僅かに腫れて居るか、或は少しく粘液のやうなものが出て尿道の口を塞いで居ると云ふやうな状態である。それが二日、三日、四日位の間の状態であるが、それから數日を経ると、其症状は段々に進んで來て、初め粘液が出て居たのが膿汁が出るやうになるし、それから尿道外口が著しく腫れ、排尿の疼痛は一層烈しくなつて來る。併し随分尿道の部分の症状が軽く済むものもあるが、場合に依つては比較的大的な苦みをするところがある。さうして尿道は一週間二週間と經つて從ひ、黄色か或は緑色の粘稠なる膿汁が澤山出るやうになる。幸福なる場合には三週間程經つと段々膿汁の出ることが少なくなり、又總ての症状が退いて行つて、遂に奇麗に治つて仕舞ふことがある。併し多數の場合にはさう云ふ風に僥倖に行かず、大變に是が爲めに苦むものである。普通



であれば前述の如き症状は四週間経つても五週間経つても已  
ます或は三四週間で病勢衰へて殆ど治つたと思つて居る中に  
又舊の症状が盛り返して来る、其二度目に盛り返して来た場  
合には急に治らず、所謂慢性癩病と云ふ状態になり慢性癩病  
になる。

### 慢性癩病

慢性癩病になると膿の出ることも少く、或は殆どなく、是こ  
云ふ苦もなく、痛くもなければ痒いかに痒いか或は痒くもない  
位である。そうして患者自身は治つた位に思つて居るが、斯  
くの如く自覺的症狀の無い場合と雖も、其病人の尿道から出  
る所の小便を検査すると、其小便の中に僅か二分か三分か或  
は五分あるか無しの小さな糸筋のやうな膿がある、或は小  
な粟粒のやうな膿がある。さう云ふやうに小便は澄んで居る  
が、小さな膿が見える。それで恰かも素人にして見たならば  
何等の症状がないから、治つたものと思つて居ると、それが  
僅かの不衛生で、或は過度の運動をしたとか、酒を飲んだと  
か、又は交接をしたとかの動機によりて再び病勢を盛り返し  
て所謂再發して又膿を出す。其膿は舊のやうに烈しくない、  
痛も亦それ程でないから、病人自らも苦むことがないけれ  
ども、何通かさう云ふ風に、酒を飲んだとか運動をし過ぎた  
か或は交接をしたことに依りて、幾らかづ膿の出ることが  
再發して来る。それが慢性癩病の状態である。さう云ふ風に  
一旦慢性になつた尿道の癩病は却々治り惜く、頑固なる抵抗  
力を持つて居る。随つて婦人等に傳染させる危険は甚だ多い

のである、且つ他人に傳染させる危険は尿道に疼痛があるや  
うな急性の癩病よりも、却つて何でもなほ慢性の癩病に  
多い、何故なれば急性の癩病で苦しんで居るやうな時には無  
論交接することがないし、又相當の傳染を防ぐやうな方法を  
常識上講ずるから、却し傳染の危険が比較的少ないが、慢性  
癩病は自覺的症狀さへ無い場合があるので、自分自身で何等  
他に傳染させないと思つて居るから、斯う云ふ場合に却て傳  
染の危険が多いのである。  
さう云ふ風に何等症狀の無い癩病が、數年或は十數年に至つ  
て本當に全治して居ない場合には種々の障害を起して来る。  
即ち癩病に感染して多年の後自然起つて来るのは、所謂尿道  
狭窄即ち小便の通ふ道が段々狭まくなつて来る。

### 尿道狭窄

是は尿道の粘膜が慢性的に長い間懸つて癩菌に侵されたる爲  
め狭まくなり硬くなつて、護謨の管のやうに自由に伸ぶべき  
粘膜が擴がらない、随つて思ふやうに心持良く小便が出来な  
い、遂に点滴状に落ちるやうな有様になる、斯うなる治療  
も困難になるし、病人も苦痛を感ずる。さうして膀胱には緊  
張を起して来る、小便が思ふやうに出ない、さうして晝間で  
も夜間でも屢々小用に行かなければならぬと云ふ状態である  
小便が左様に出不惜の場合である、又小便よりも分量に於て  
又射出力に於て遙かに少ない所の精液の射出に對しては非  
常に困難であつて、随つて其精液射出に伴つて疼痛を感ずる  
と云ふやうな不都合なことになつて仕舞ふ、或は又其狭くな

つて居る所の尿道の内側が所謂潰瘍になつて爛れて来て、遂  
に尿道周囲の結締組織に炎症が起つて、其處に所謂**尿道炎**

### 尿道炎或は尿道周囲の膿瘍

尿道の周圍に膿を持つて来て、腫れて非常に疼痛し、外の方  
陰莖の下の部分、或は陰莖と肛門との間に於て膿物が出来て  
さうして破れて膿が出る、膿が出るのみならず、それは尿道  
と交通して居つて、爲めに尿瘻と言つて小便の漏れる穴が出  
来る。さう云ふやうな不都合な状態になる、さうなつたから云  
つて小便が楽に出る譯ではない、屢々排尿をやらねばならぬ  
し、其排尿の爲めには疼痛もあるし、さうして尿道から小便  
の漏れるやうな不都合なことになる、さうして向尿道と膀胱  
との間の攝護腺の病氣が最も屢々伴ふて来る病氣である。

### 攝護腺炎

に侵されると、矢張り今度は小便をするのに至極困難である  
のみならず、精液を出すにも疼痛がある。又大便排泄の場合  
にも疼痛があつたり、或は便意を排泄する必要が無いのに便  
意の感覺を頻りに催して、甚だ不快の感覺を起すのである、  
是は急性攝護腺炎の場合であるが、攝護腺炎が急性に化膿す  
ると、攝護腺が膿を持つて来て、さうして肛門と陰莖との間  
に破れて来ることもあるし、或は直腸の中で攝護腺が破れて  
行くことがある。さう云ふ時には腐敗細菌が攝護腺の破れた  
口から這入つて行つて腐敗炎症を起し、其爲めに全身に敗血  
症を起し、全身發熱し、衰弱して死ぬやうなことがある。

これは急性攝護腺炎の場合であるが、又**慢性攝護腺**

### 炎

の場合には、一種の不快感なる排尿時の感覺、精液の射出  
時の不快なる感覺が伴ふのみならず、所謂生殖器性の神經衰  
弱と云ふやうなものを起して、始終其人は神經過敏になり、  
精神寒いで鬱々として樂まない、仕事をすることにどうも進ま  
ない、仕事をやる勇氣がないと云ふやうな、精神沈衰の状態  
に陥り、甚だしきに至つては憂鬱の結果遂に全く自分の勉學を  
廢して仕舞つたり、或は其爲めに自殺を遂げるやうなことが  
ある。總て生殖器は精神の根本に關係があると見て、生殖  
器に損害を受けたならば、大抵の者は塞ぎ込んで仕舞う。さ  
う云ふ風に此病の爲めに精神的の損害を蒙ることも亦決して  
少なくない。

### 精系炎と副睪丸炎

それから又男子の場合に於ては、尿道と連絡して居る所の精  
系即ち精液の出る道、或は睪丸即ち精液を捨てる所が侵  
されて来る、即ち精系炎、或は副睪丸炎と云ふのが男子の癩  
病には、急性の時にも慢性の時にも屢々發するのである。  
其爲めに精液の外に出る處の道が塞がつて外に出ることが出  
来ない、詰り此睪丸炎の爲めに精蟲が死んで仕舞ふ。故に左  
右兩側の睪丸が癩毒の爲めに侵された時には、全く一つの精  
蟲も出ない云ふ状態に陥る、其爲めに所謂男子的不妊症  
子種がなくなつて仕舞ふのである。



### ▲女子の癩病(しょうがち)

次に女の癩病の場合を御話する、女子の癩病の場合には、先づ矢張り局部即ち陰門が侵される、それから陰、尿道等が侵されるのであるが、此陰門や陰は癩菌に對して割合に感度の鈍い所であつて、炎症を起し痛むとか苦しむとか云ふやうな自覺的に氣が附くことは餘程少い、併ながら第一着に急性の癩病が烈しく来た場合には、陰門、陰の中に於ても烈しく炎症を起し、赤くなり、爛れて、さうして随分腫脹とか陰門炎となつて疼痛が烈しくなるのである。或は陰門の所に於てバトリニール氏腺と云ふ腺があつて、其腺の中に癩菌が這入つて行つて、其陰門の右、左或は両方一所に非常に大きく腫れ塞がることがある。そう云ふ場合には其處を切開すると多量の膿が出て、其膿には癩菌が澤山這入つて居る。併し先づ陰門、陰などは通例左程大なる害を蒙らないし、又尿道が侵されても、婦人の尿道は極めて簡單で、尿道の口から膀胱までが短かくて單純な管であるから、男子の尿道加答兒のやうなさう重い色々な症状を起さない、唯初めの急性の場合には小便をするのに疼痛があるか又は尿数が頻數となるか、慢性となつたならば、其婦人には何等自覺がない。尿道から膀胱に這入り膀胱管炎、腎盂炎、腎臓炎、斯う云ふ道順に病氣が擴がり行くことは男子と同様だが、併し尿道狭窄は婦人には起さぬから、随つて男子のやうに之が爲には困難の症状を來さぬ。其代りに婦人に於ては他の方面に複雑なる臓器がある、即ち子宮、喇叭管、それから卵巣、其處へ行くに所謂複膜内

であつて骨盤、複膜になる。だから婦人の場合には、腹膜の中に這入つて腹膜炎を起すことが出来る。それで婦人の場合には、尿道の方面は、男子の場合と略ぼ彷彿して居つて、さうして男子の方より困難を來たす症状が少ないが、此子宮の附屬器即ち卵巣、喇叭管、或は骨盤の腹膜さう云ふやうな所に癩病が蔓延して行くに、男子の場合よりも遙かに恐るべき結果を來すのである。婦人が癩病に罹つた場合には、子宮の病氣とか卵巣の病氣とかを甚だ屢々起すのである、是は主として婦人科醫の掌する所であつて、殆ど婦人科患者の大多數は子宮内膜炎、子宮外膜炎、卵巣炎、喇叭管炎と云ふやうなものであるが、それ等の大多數は癩菌性のものである、それは皆家庭の間に於ては男子が之を輸入するのである、ネッゲラトと云ふ人の言つて居るのに、第一に婦人が癩病に罹れば殆ど皆後日子宮内膜炎を起すか或は子宮外膜炎を起す。第二に男子即ち夫たる人が癩病を持つて居る時も亦其妻なる人は必ず今言つたやうな子宮内膜炎、外膜炎を起す、是は即ち亭主が癩病ならば必ず妻に傳染するからである。第三には此婦人の癩病は多數の場合、多年の宿病となつて且不妊症の原因となる。斯う云ふことを言つて居る、又ネッゲラトと云ふ人が取つた統計に依つて見ると、夫が癩病であつた場合、其婦人の六〇・五%に於て不妊症を證明して居る(無論是は婦人が夫から病氣を移されたものと見へる)それから又もう一つは不妊症を訴へる所の夫婦の八十七組を調べた所が其六十二組即ち七十一・三%に於て癩病が原因である事を認められた。斯くの如き不妊症と云ふものは夫婦間の連絡に屢々動搖を來し、

家庭の間に不幸な結果を來し、廣く人生に大なる不幸を與へると云ふことは今更申上るまでもない所である。そののみならず、婦人に於ては子宮炎、喇叭管炎、卵巣炎の爲めに、非常に種々な困難苦痛を來すので、即ち愉快であるべき交接が却て疼痛と困難を伴ふ場合が多い。それから月經時に於て起きて居られぬ程に月經困難を起す。月經時ばかりでなく、不爾でも腰が痛いとか、腹がひきつると云ふやうなことが生じて來るし、頭から全身到る處に反射的に種々の障害を起して來る。又交接不全の爲め夫婦間の愛情が自然薄らぐことにもなる。そののみならずそれが精神に打撃を與へて神経質の甚だしきものとなつて仕舞ふ、婦人の神経病の大多數は此生殖器の疾患から來るのであつて、所謂ヒステリーと云ふ語は元と子宮と云ふ字から來て居るのである。蓋し婦人の心を悩ますものは多く婦人の生殖器から出るからであらう。

### ▲眼の癩病

次に癩病の眼の疾患、是はまゝ癩菌が眼を侵した爲めに來る病である。癩病患者が處置の悪い爲に、自分の手で以て癩病の膿を眼に附けることがある、すると癩菌性膿漏眼と云ふものになつて、眼が赤くなつて腫れて、膿が澤山出て、疼痛あり、發熱し、且頭痛がすることがある。而して唯是が癩菌性膿漏眼で済むと宜いが、後に角膜潰瘍を起し、角膜が破れて中から大切な眼の中の器械、光彩、硝子體、レンズと云ふやうなものが飛び出して仕舞ふ、即ち膿漏眼の爲めに盲目となることが多い、この膿漏眼は大人に取つても危険であるが、

又初生兒に於て甚だ危険であつて、即ち母親が癩病を持つて居ると、子供が生れる時には陰門、陰の道を通つて來るから其際母親の陰の分泌物が眼に這入り、産れて間もなく眼が腫れて來て角膜潰瘍を起し、眼の玉が崩れて盲目になる、さういふ風に唯産れて天日を仰ぐこと二日か三日にして、再び天日を見失つて暗黒の世界に入るといふ誠に不憫なことになつて仕舞ふ。此初生兒の膿漏眼が随分盲目の原因となつて居る。ヘルネル氏の統計に據る時は、盲目の原因は七十九%に於て此の膿漏眼に因るのである、さう云ふ風に盲目の大多數は癩病が原因になつて居る。其人間は實に産れてから間もなく盲目になつて、世界の如何なる物であるかを知らず果て、仕舞ふ其不幸と云ふものは實に同情に値するものである。又さう云ふ盲目の人間が社會に出ると、國家が此人間の爲めに損失を蒙ること甚だ大なるものである。マダヌス氏の計算によれば、プロイセンで二萬二千人の盲人の爲めに國家が財産を消費して居る年額が二千萬マルク、日本貨にて凡千萬圓である、さう云ふ風に金に積つても大したもののである。

### ▲關節炎と心臟炎

今までの話は癩病の局部に對する話であるが、又癩病は局部ばかりでなく、全身に毒を及ぼすものである、即ち血液に此癩菌が侵入して行くと、それが方々に廻る、即ち癩菌性の癩麻痺斯を起し、是が爲めに關節が侵害せられ、膝の節、足の節、手の節、或は腰の節、さう云ふ所に關節炎を起し、關節の中に漿液が溜まり、膿汁が溜まり、非常に痛んで熱を



發し、節々が腫れる。然るに此の關節炎の經過は却々長く  
て急に治らない。又治つてもそれが爲めに關節がうましく動か  
ない、所謂關節強直症を起して、曲つて治れば、曲つた儘で  
伸びることが出来ない、又伸びた儘で治をつたならば、曲げ  
ることが出来る、例へば膝關節炎が伸びたまゝ治れば、所謂  
縮足で、座はることが出来ぬ。曲つたまゝ治れば歩行するの  
に不都合である。是は尿道にあつた淋菌が血液に侵入り、血  
管に沿つて關節に侵入るから全身傳染の状態である。併し關  
節の場合ならば、まだそんなことで済むが、是が肋膜炎に行  
き肋膜炎を起し、尙ほ危険なのは心臓に行き心臓外膜炎、心  
臓内膜炎などを起して來ると、一週間経つか経たない中に斃  
れて仕舞ふ、是は急に淋病が心臓を侵した場合である、即ち  
淋菌が血管の中に這入つて方々に出張所を拵へて彼方此方で  
殖民をして居る間に、心臓の外膜内膜に植民地を拵へたなら  
ば直ぐ危険になる、随分立派な有用な人が一朝の不衛生から

## 淋病の診断法

八百屋者や田舎醫者に淋病の診断を乞うと、小便の検査も  
せずして藥を注入する醫者がある趣だが、これ等は醫學上許  
すべからざる事である  
淋病の尿道のみに存せるか或は後部に蔓延せるかは患者  
が排泄する小便を検査せねば確實に知る事が出来ない。小便  
検査によりて前部か後部か將た重さか輕さを確認して藥液  
を注入すべきことは諸大家の説が一致して居るのである

淋病を起し、續いて關節炎、淋毒性の心臓内膜炎を起して、  
遂に忽然として斃れることがある、そう云ふ場合でも、醫者  
は淋毒性の心臓内膜炎の爲めに死んだとか、第三期微毒の爲  
めに死んだとか云ふやうな診断書は書かない、只々簡單に心  
臓病と書く、實際の原因に就ては唯主治醫が自分で含んで居  
るばかりである、それであるから死亡届を見ても、死亡原因  
の中には滅多にさう云ふことは出てない、病床に當つた醫者  
でないことそれは分らぬ。  
斯くの如く淋病は此人間の間に其勢を逞ふして、夫から  
婦に、親から子に傳はり、或は途中で子供が流れて仕舞つた  
り、或は精液が切れ、卵が切れて仕舞ふとか云ふやうな不幸  
なる状態を我々人間に持ち來たのである、故に我輩は花柳  
病中で第一に淋病を懼るゝのであります、而して花柳病中で  
淋病が一番多いのですから、天下國家の爲めに實に長大息の  
至に堪へない次第で御座います(完)

健全なる人の小便は透明にして日本酒の如き色を有すれども  
淋病の爲め膿汁等の存在する場合には、小便は其部を通過する  
に際し之れを洗ひ出すから膿の爲めに不透明となり濁濁する  
のである  
一 Δ小便の採取法は左の如し  
先づ二合位を容るべきコップ二箇を下圖の如く備へ前後  
の番號を附す

二 其方法は先づ前コップに小便七分を取り後のコップに残  
り三分の小便を取り、終  
りに二三滴タラシと考  
る小便は最も大切なる部  
分なれば後のコップ外に  
もらさ  
るや  
う注意すべし  
右の如くにして取たる小便は  
疾病により左の如き濁濁状態  
を示すものである



(病名)	(前小便)	(後小便)
前部尿道炎	濁濁	透明
全尿道炎	濁濁(強し)	濁濁(弱し)
膀胱炎	濁濁(弱し)	濁濁(強し)
尿道膀胱炎	濁濁	同様

## 尿道の洗滌法

洗滌の爲めに慢性淋病に  
陥るものあり注意せよ

患者自身で尿道を洗ふのは頗る危険である、又一般素人の  
使用する風船玉のやうな「ゴムスポイト」は非常に有害である  
今其缺點を挙げて見よう  
一 不透明なるが故に液中に茶などが混じて居ても之を發

見することが出来ない  
安全に消毒が出来ない計りでなく是れが爲めに他の有  
害なる微菌を尿道に移植する事がある  
二 藥液の量を量ることが出来ない即ち洗滌時に注入す  
る藥液の量は一定して居るのに、此柔軟な「ゴム」球を  
用ゆる時は多きに過ぎたり少きに失したりする  
三 「ゴム」球に藥を吸引する時は毎回必ず空気の吸入を免  
れない、で空気の爲めに藥は目的の場所に達しないか  
ら何の効能もない事になる  
四 「ゴムスポイト」の吸管は潤滑でないから洗滌中に充血  
せる粘膜を損傷することがある  
五 斯の缺點があるから「ゴムスポイト」を使用するは危険である  
で洗滌器に附しては専門大家が非常に苦心して居られる、我國  
では管川醫學博士、土肥醫學博士、朝倉醫學博士、櫻根醫學  
博士等が大中小異の注入器を發明せられた、下圖に示すは、  
朝倉、管川、土肥の三醫學博士の工風せられたる「スプリア  
ツネ」である



是れは「ゴムスポイト」の諸弊害を除く爲めに製作したもので  
安全である、併しこれは前部尿道の注入器であり、  
注入器の消毒を充分にし、朝夕二回又は一日三回、光線を選



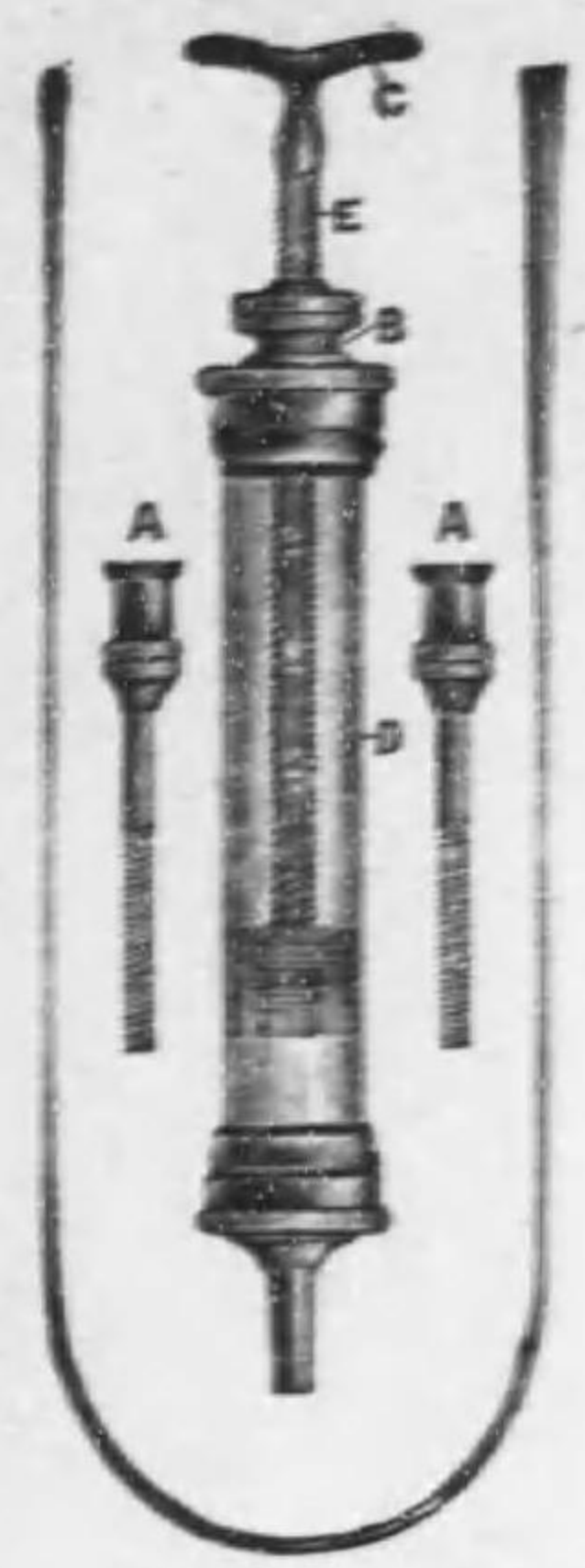
け、眼の用心を怠らずして洗滌を行つたならば自宅洗滌も出  
来ないことはないが、成るべくならは専門大家に洗滌法の教  
示を受けるか又はドラッグ商會の本支店に來らるべし

### 後部尿道炎

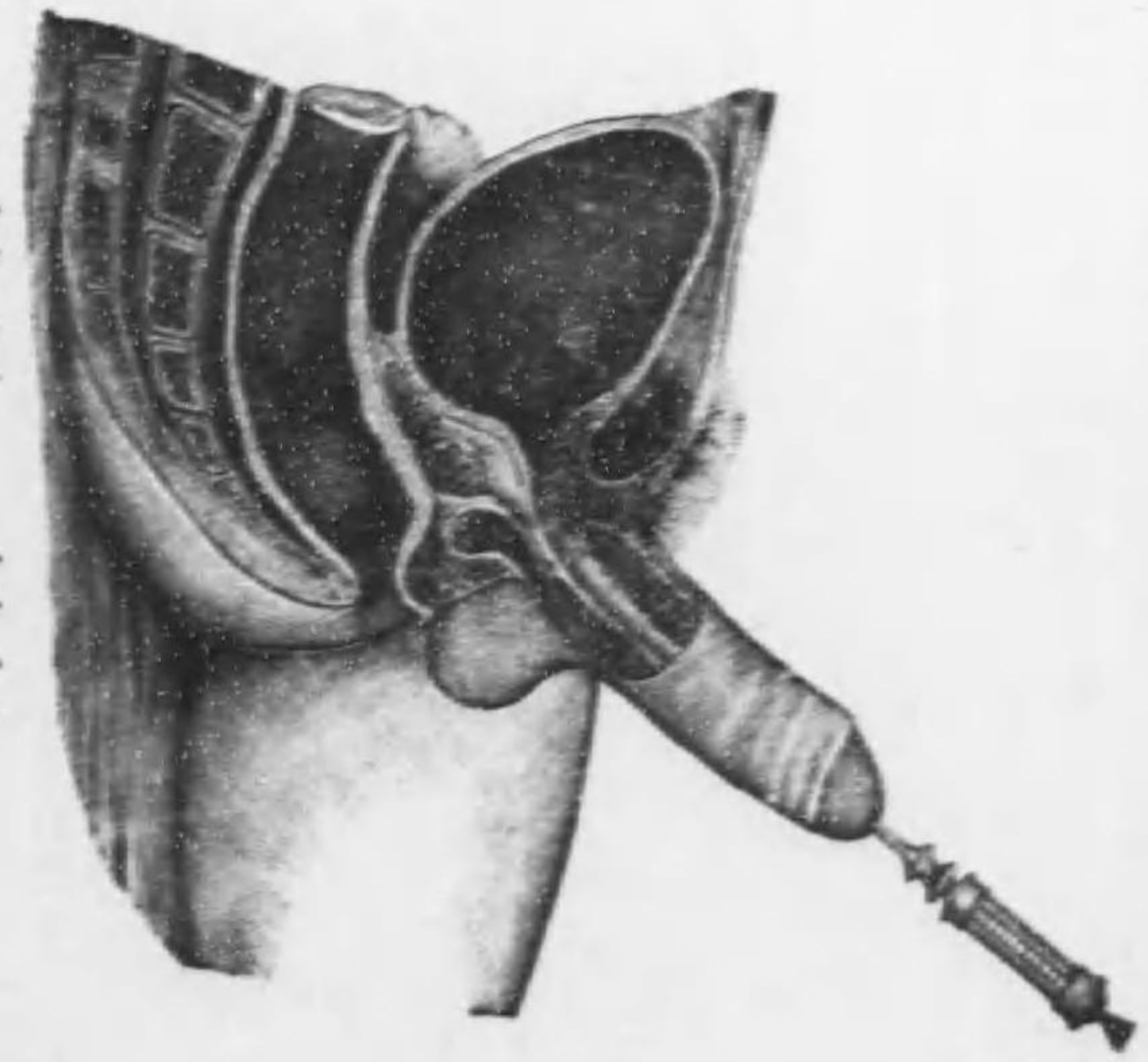
は尿道の奥の方の病です、此後部には上述のスプリアツフェ  
で注入しても、薬は其患部までこゝかないのです、故に此後  
部にはクルツマン氏の注射器があり、ギョーヨン氏の點滴注射  
器もある(左圖参照)



ギョーヨン氏點滴注射器



此器械は消毒法を充分に行はねばならぬ、また吸入法もある  
から素人が勝手に使用することの出来ないのである、で使  
用せむとするものは、専門大家に依頼するか又はドラッグ商  
會の本支店に來りて相談せられたし



### 迷信の賣藥

弘法大師の夢ごとしとか、一家相傳の神藥だ林と仰々しく廣  
告をして居る癩病藥があるが、其様なものは信じ難い、夢は  
五臟の疲れて、夢などで藥の發見は覺束ない、神のお告げも  
よい加減の者である、何故なれば神や佛の信仰で病が治する  
ならば、朝から晩まで神や佛を信仰して居れば無病息災であ  
る筈であるが、そうは同屋が卸さない、斯る時代おくれの藥

を服用して、治療の時機を失ひ取り返しのつかぬ難症に陥る  
ものが澤山あるのは既述の極である

### 癩病は如何にせば根治するか

癩病をせんじて飲めば治る、砂糖湯を澤山飲めば治る、うわ  
うるし又は山歸來を飲めば治る、女に吸はしたら治ると云ふ  
様な馬鹿な療法をして遂に慢性癩病となり取り返しのつかぬ  
破目に陥る人もある、又たイカチマ醫者にかゝり、醫者の爲  
めに慢性癩病にせられ實に氣の毒な人もある又た幾八百の新  
聞廣告に釣り出され馬鹿を見る人もある癩病は初期に有効藥  
を服用し養生法を充分に守つたならば直ぐ全治するのである  
けれども有効藥を服用しても養生を守らないで酒を飲み、女  
に接すると云ふ様な不養生をしたなれば慢性に陥るのである  
藥がきくか毒がきくか尋ねれば、藥よりも毒の方が靨面に  
よくきくので、何程有効の藥でも毒養生をせなければ効能が

ない、假令ば火災に石炭油を注ぐと同様に注げば注ぐ程火焔  
は大きくなる、防火の目的でポンプで水を注射する間は石炭  
油や風は禁物である、で有効藥を服用する間は養生法を絶体  
的に守らねばならぬ、それから神佛の御告げ妙藥だの、新聞  
のイカチマ廣告杯を信じてはなりません、癩病に罹つた時は  
第一にドラッグ商會の本支店に駆け込むか道路の人は手紙で  
照會すれば、完全なる有効藥があるから直ぐ全治する、で前  
述のやうな困難に陥る事はないのです、ドラッグ商會は世  
界の醫學藥學に注目して居るから、自宅にありながら世界の  
大學者の配劑したる最新劑大有効藥の新藥を服用する事が出  
來ます論よりは證據だ、ドラッグ商會の藥で全治した癩病患  
者が數十萬人と云ふ多數あるのが何よりも藥の効力が卓絶し  
て居る證據である、醫者にかゝれば二三月もかゝる癩病も  
ドラッグ商會の製劑を服用すれば四五週間で根治するのであ  
るから實に癩病患者の爲めに福音である。

## 尿道狭窄 (漸次擴張法)

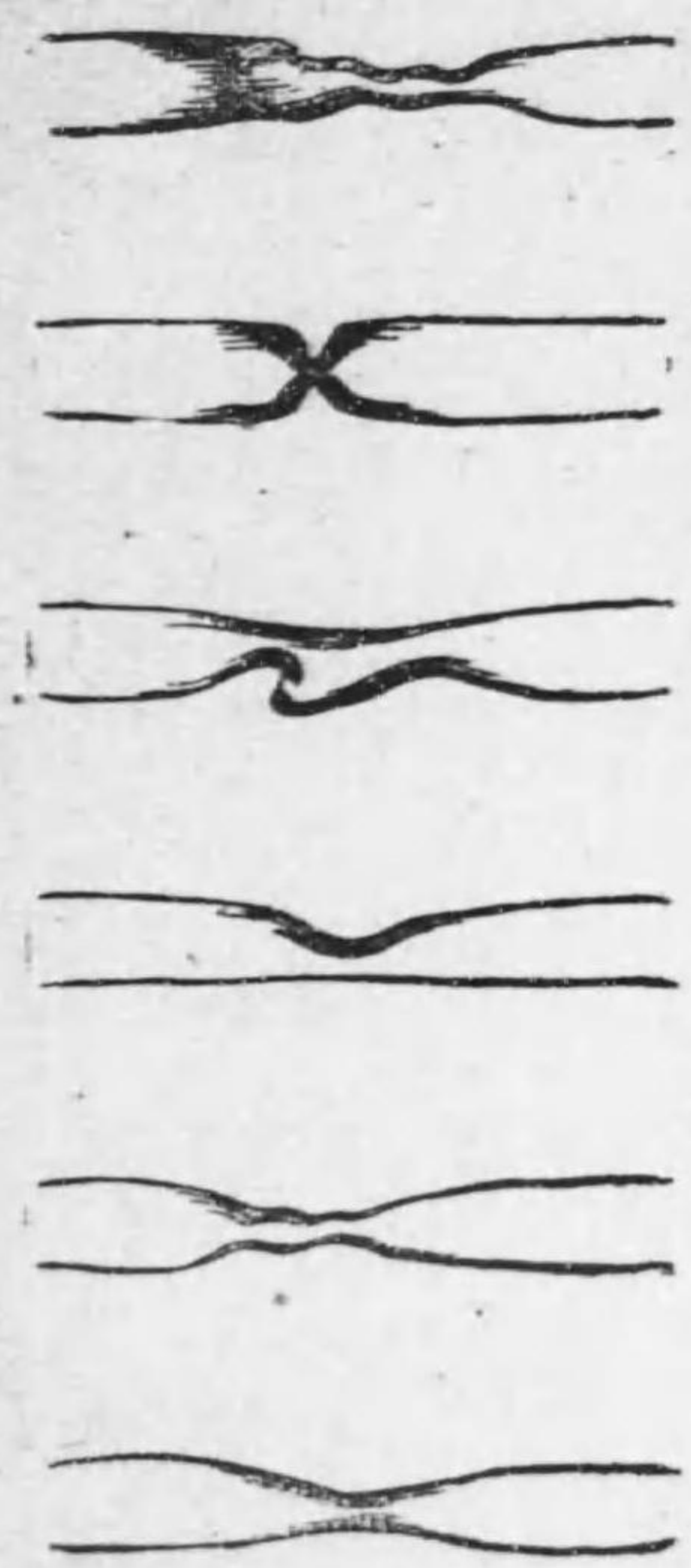
慢性癩病の歸着は尿道狭窄である、これは永続した炎症の爲  
めに尿道の一ヶ所又は數ヶ所に硬化(節)が出来て、ゴム輪の  
如く縮んだり伸びたりする弾力が欠乏するのであります、併  
し稀には急性期の経過中に眞の狭窄を起すこともある、トム  
ソンの統計によれば百六十四人の患者中

- 十人は急性期中
- 七十一人は一年の後
- 四十一人は三四年の後
- 二十二人は七十八年の後
- 二十人は二十五年の後



に起つて居る尿道狹窄は理學的的作用や化學的作用の爲めに起るものもあるけれどそれは百人の患者中に十人位で九十人迄は痲痺から来るのであります。輕度の狹窄は患者の自覺に上らない位であるが少し進んで来ると、放尿後小便の残る感があつて一二分の後に少許の小便の滴が自然に漏れ出で褲又は衣類を汚すのである。尙進んで来れば小便の線が細くなつたのを悟り、小便が割れて出たり又は扭轉たり、緩く力なしに流出する感が起ります。それから段々重くなる小便が充分に出なくなる爲めに腹に力を入れますから脱肛するやうになります。高度の狹窄には小便が全く出ないやうになることも屢々あります。尿道狹窄は獨り小便するのが困難な計りでなく、射精に困難します故に交接的の快感を減少し且屢々射精に伴ふに疼痛を以てすることがあります。尿道狹窄にも種々あります故に左の圖を御目にかけて

尿道狹窄の有る各種の形状 (圖型模)



狹窄の療法は安全で永久的効力のあるのは擴張法であります。即ちブリーチ挿入である、ブリーチには佛國製と英國製とあり、十二番迄あります。初めには小さきブリーチを挿入し、段々大いブリーチを挿入して節を擴げるのです。佛國製に就て申すれば二十四號迄挿入するので、それは二十四號が小便の出る口の廣さと同じで、それ以上は挿入しられませぬ。又十七號以上になりますれば金屬のブリーチを挿入しても宜しいけれど十七號以下は決して挿入してはいけません。何故なれば尿道でない假道を拵へる患があるからです。此ブリーチを挿入するには充分消毒するは勿論挿入に際してオレフ油をブリーチに塗り且二三滴を尿道口に滴らし然る後ブリーチを挿入すれば挿入が容易である、此ブリーチは尿道の硬節を擴張し痲痺の隠れ場所がなくなるばかりでなく、痲菌が荒らして居る尿道を平滑にする効力もあります。

▲ドラッグ商會の發展

ドラッグ商會の支部、支店、分店等は二百有餘ヶ所ある、此多數の店が花柳病専門藥房として商會の製劑ばかり販賣するのみで經營して行くのである。然るに日に月に發展し今日の盛運に會したのは取りも直さず商會製劑の効能が顯著なからである。且商會の支部、支店、分店の主任は相當の素養があり、花柳病醫學を研究して居るのみならず、顧客に對して懇篤親切丁寧を旨として居るから、顧客は安心して服藥し、時間と經費とを節約し病を

根治せしめ得るので、藥の効能は全治せる患者よりそれからそれへと傳へられつゝある商會の製劑を服用して根治し懸篤なる痲痺を送らるゝ人は一々枚舉に達がない位で、痲痺は積んで累々山山の如くあります。近頃化學療法とか殺菌研究所とか云ふて何か新發見の療法でもあるかの如く吹聴するものがある、此等は單に一種か二種の自家製造の賣藥を巧みに販賣せむとする瞞着手段である、現代病理學上の痲痺梅毒の治療法は如何に類別せられて居るか云ふに、先づ痲痺では、(一)注射療法(此療法は尿道には無効)(二)尿道加熱療法(三)ブリーチ療法(四)座藥挿入(五)藥液注入(六)洗滌療法(七)内服療法等である。梅毒では(一)切除療法(二)燒灼療法(三)蒸氣療法(四)塗藥療法(五)注射療法(六)内服療法等である、此外痲痺にも梅毒にも尙各種の治療法があるけれど、此等は理化學療法の何れかに屬するもので彼の山師的賣藥屋連中が理學療法とか化學療法とか云ふのも此の中の一部でありますから決して新しく發見した療法ではありません。痲痺や梅毒は理學的療法のみで悉く治るものでもなく化學的療法ばかりで根治せしめ得るものでもない、要は各種の療法を斟酌商量して患者の體質、病性、病氣症狀に基きて種々な方法を應用しなければ到底完全なる奏効を見る事は出来な。此道理を御考になれば一種や二種の藥劑で痲痺や梅毒が治癒する筈のもので無いと云ふ事を御判りになる事と思ひます。我商會の製劑は方今世界の醫學上、藥學上最も卓越せる効能ありと公認せられ日本藥局法即ち國家の法律を以て之が効能を明示せられある確實なる物のみを主藥として製劑しあ

る責任製劑である此責任製劑を以て病源療法、對症療法、内服療法、外用療法、其他自宅にありて施し得る理學的、化學的の各種療法を應用して、醫藥を受くる事の出来ない事情ある患者の爲めに盡さんとするのであるが、變幼極りなき多種多様の疾病に對する凡ての治療法は限りある紙面に盡し得ないし、又た幾多の疾病の中には専門の智識と熟練なる技能を有する刀圭家の手を籍らなければならぬものもありますから患者諸君は自己の病狀を打明けて直接御相談に御來店下さい全治の訣秘を懇篤に教示します。

▲僞ドラッグ商會各所に起る

ドラッグ商會の隆盛を羨み、東京、京都を初め所々に僞ドラッグ商會を起し、藥名、容器等寸分違はぬ物を模造し販賣するものがある、世が淺季で徳義地に墮ちて居る今日、斯る不徳漢が輩出するのは深く怪むに足りない、又商會は百の僞ドラッグが出来ても敢て意に介せなければ、顧客の中には商會の製劑と間違つて購入せらるゝ人がないにも限らないから商會の製劑を購入せらるゝ御方は「大阪有田製」の六字に注意せられんことを望むで止まないものである。



大正六年十一月八日印刷

大正六年十一月十二日發行

正價金壹圓

編輯發行者

橫山峰

大阪市北區四野田今開町五百五拾壹番地

印刷所

安藤寫眞製版所印刷部

大阪市西區京町堀上通二丁目九番地

發行所

大阪市南區三休橋北詰角  
大ドラッグ商會出版部



104  
116



終